

愛
心のふるさと

愛心のふるさと

塩川香世 著
田池留吉 監修



ふるさと

ともに ともに 帰るう
遙か 彼方 ふるさと
愛は 今も 心に
思い出そう 約束

帰つておいで 我が家に
どんなときも 待つてる
ここが 君の ふるさと
愛へ帰ろ ふるさと

たつた ひとつ 真実
やつと やつと 出会つた
超えていこう 喜びで
とわに ひとつ 我が友

愛へ 帰る 喜び
愛を 思う 喜び
心の 中に 喜びが
みんなひとつ この道



愛、
心のふるさと／目
次

I はじめに 3

II ともに帰ろう 13

III 愛へ帰ろう。心のふるさと、愛へ

IV 正しい瞑想が鍵である 151

V おわりに 200

I はじめに

私達は愛から出てきて、愛へ帰っていきます。それが私達の本来の姿だつたんです。本来の輪廻(りんね)でした。

しかし、私達は、転生(てんしょう)をするたびに、本来の輪廻(りんね)から大きく外れていきました。

愛を捨てて、本来の自分を捨てて、私達は地獄の奥底に落ちていきました。

落ちて、落ちて、何度も生まれ変わり死に変わりしても、その地獄から抜け出すことができなかつたんです。

だから、「人生は苦だ」と、誰かが言いました。

それを聞いた人が「そうだ」と、もつともうしく語り継いできました。

違うんです。人生は喜びだつたんです。喜びしかなかつたんです。

しかし、愛、自分のふるさと、本当の自分を捨て去つた心には、「人生は喜びだ」という真の意味など分かるはずがありませんでした。

そんなことより、日先の栄華えいがを自分に引き寄せることがばかりに一生懸命でした。

人生の成功者、この世の成功者、それはいつたい本当にあるのでしょうか。

偉人、賢人、愛の人として、歴史上、たくさん的人物名が列挙されています。しかし、本当にその中に、眞の偉人、賢人、愛の人が存在するのでしょうか。

自分の本当の姿を知つて、自分の人生を喜びで生きてきた人など、全く皆無でした。

これが、田池留吉氏とともに学びを進めてきた結論です。

みんな、これまでこの地球上に転生てんじょうしてきた人達みんな、全部、全部、愛

から出てきて、愛へ帰つていくことを心で知り得なかつたんです。

だから、苦しました。悩みました。悲みました。嘆きました。

そして、どんなに栄耀栄華えいようとえいかを極めた人生であつても、また真の道を究めようと鋭意努力し、煩惱を断ち、厳しい修行を自らに課しても、その肉体を離した瞬間、真つ暗闇の奥底に急降下していくんです。

自分の本当の姿を知らずに、死んだら終わりだ、人生一度切りだとしてきました人間の中には、本当に生きても地獄、死んでも地獄のまま。どこにも天国などありません。

「安らかに召されました」「成仏されました」。もう、そんな嘘うそつぱちなことは言わないよにしましょう。

天国など、どこにもないんです。成仏とはいつたい何でしようか。

本当の自分を捨て去つた人間に、天国も成仏も何もありません。あるのは、生きても地獄、死んでも地獄の闇黒あんこくの世界だけです。

しかし、世間一般には、こんなことは全く通用しません。

全く通用しない、訳が分からぬことを語つてゐるほうがどうかしているのではなくて、それほどまでに人間というものは、地に落ちてしまつたということなんです。

私達人間は、なぜ生まれてきたのか、何をするために生まれてきたのか、自分とはいつたいたいどんな存在なのか、自分は死んだらどうなるのか、そういうことを全く何も知らずに、ただその時、その時を生きてきただけのことです。いいえ、私はその時、その時を、ただ生きてきたのではなくて、一生懸命に生きてきたとおっしゃる方もあるでしょう。

しかし、その時、その時を、一生懸命に生きることに終始して人生を終えていくだけでは、本当の人生を生きたことにはなりません。

本当の自分に出会うことのない人生は、闇黒の人生なんです。

どんなに外観を整え、立派に見せてても、自分の本質である意識の世界は

闇黒のままです。

自分自身が闇黒の世界に沈み込んでいるのに、世のため、人のためと、いかにも善人ぶつたことは、もう、どこかで本当にジ・エンドにしなくてはなりません。

「本当に、世のため、人のために尽力すると言うならば、まず自分の闇黒の世界をしつかりと知り、そこから自分を脱出させる方向に、全力を尽くすべきだ」と、大阪府南河内郡河南町大宝に住まいする一介の老人、田池留吉氏という人が誠心誠意伝えてくれて、時はすでに三十年余を経て、今に至っています。

この世の常識、慣習、道徳、規律、規範等々で、自分の心を縛り付けて、金、神、権力だけを求め続ける哀れな姿に成り果ててしまつたのが、私達でしたというところから、まず出発しましょう。

それが、人間復活の道の第一歩だと私は思うんです。

人としての道を説くなれば、人間復活の道を真摯^{しんし}に歩くべきだと私は提唱します。

では、人間復活の道とはどんな道なのでしょうか。

それは冒頭にあります。愛から出て愛に帰る道です。

その道を自分で見つけ、確立することが、本来の私達のするべきことでした。

どうでしょうか。

あなたは、自分の本当にるべきことをして、死んでいけるのでしょうか。

それとも、自分の本当にるべきことをしないで、また死んでいくのでしょうか。

あなたの周りを見てください。本当に幸せな人がいますか。

みんな顔で笑って、心で泣いているのではないでしようか。

その自覚すらない人がごまんといます。

自分の心の叫びに耳を傾けることなく、あなたの今の時間を終えていつていいのでしょうか。

愛、心のふるさとに目覚め、そして、「人生は喜びでした」と心から知つてください。

自分の本当にるべきことをして死んでいくのが、真の偉人、賢人、愛の人です。

さて、前置きが長くなりましたが、ふるさとと言えば、大抵の人は生まれ故郷を思い浮かべます。

自分が生まれて育ったところ、あの山、あの川、懐かしい場所として、ふるさとを心に思い起こす人も多いでしょう。

懐かしい場所とともに、懐かしい顔も浮かんできます。お盆、お正月は、いつも帰省ラッシュのニュースが取り上げられ、飛行機、鉄道の混雑ぶり、車

の渋滞ぶりが伝えられても、やはり、ふるさとでのんびり過ごしたいということでしょう。

そういうふるさともあります。

ええつ？ ふるさとって他にまだあるのですか。

そう、そうなんです。実は、そういうふるさともいいけれど、もつといふるさとがあるんですよ。いいえ、私達にとっての本当のふるさとは、たつた一つだということを知つていただきたいと思っています。
そこで、私は、ふるさとの替え歌を作つてみました。

ともに ともに 帰ろ^リ
遙か 彼方^{かなた} ふるさと
愛は 今も 心に
思い出そ^う 約束

帰つておいで 我が家に
どんなときも 待つてゐる
ここが 君の ふるさと
愛へ帰ろ ふるさと

たつた ひとつ 真実
やつと やつと 出会つた
超えていこう 喜びで
とわに ひとつ 我が友

愛へ 帰る 喜び
愛を 思う 喜び

心の 中に 喜びが みんなひとつ この道

皆さんもよく知っているあの「ふるさと」のメロディーで、この替え歌を
ぜひ、ぜひ、□ずさんでみてください。

□ずさみながら、もつといいふるさとって、いつたいどこにあるのか、本
当のふるさと、たつた一つのふるさとって何？と思つてみてください。
さあ、それでは、そのもつといいふるさと、本当のふるさと、たつた一
つのふるさとについて、これから語つていいくことにしましょう。

II

ともに帰ろう

さて、この章では、まず、「はじめに」のところで触れた田池留吉という人を紹介したいと思いますので、田池留吉氏自身が綴つた次の文章を読んでみてください。A4用紙二枚の分量です。それぞれに、「私の仮説」「直感」という表題が付いています。

田池留吉氏が、これまで三十年余りの年月の中で、誠心誠意伝え続けてくれたことが、そこにみんな書かれています。

①「私の仮説」

私は、直感的に物事の本質をとらえようとする傾向があります。

意識についても、「初めに意識ありき。意識は愛、愛は波動、エネルギー、愛は永遠、無限、無形にしてパワー、愛は確実に仕事をしていく」と仮説を立てます。

私は、直ちに仕事にかかります。真実の追求が、我が人生となつ

ていきます。

私の仕事は、実験と体験、そして実証と確信を経て、「私は愛です。あなたも愛です。一つ」と発信していくことと心得ます。私の仕事は、今、順調に^{はかど}涉っています。死ぬまで元気で仕事をしていきます。今の私の心は、喜びと幸せとありがとう、ありがとうで一杯です。

すべてが愛、存在も現象もすべてが愛です。意識が人間というものの、もろもろの形を持った時から、人間は肉を本物とする思いを徐々に大きくしてきました。現時点では、地球人類の殆ど^{ほとん}は肉を本物とする思いで固まっています。真実が全く見えなくなってしまっているのです。ますます遠心的な状態になっています。

中心は愛です。すべては中心に帰ろうとしています。本来の求心的な状態に戻そうと、愛のエネルギーは働いています。意識は流れています。求心的が真、遠心的は偽。遠心的なエネルギー、マイナ

スのエネルギーを、求心的なエネルギー、プラスのエネルギーに変えようと、意識は確実に流れています。次元移行に向けて順調に流れています。

愛は、愛を捨て去ったものにも、忘れ去ったものにも、常に愛のエネルギー・波動を伝えています。愛に帰ってくるように、求心的であるように、マイナスの現象として伝えています。従ってマイナスの現象は実はプラスの現象なのです。

マイナスの現象をマイナスととらえれば、さうにマイナスの現象となっていくのですが、愛の目覚めへの現象、プラスの現象ととらえれば、プラスの現象と変わっていくのです。

愛は愛から出て愛に帰っていくのです。地獄とは、愛を忘れ去り捨て去った人間が作り上げた世界です。それでも愛は愛の目覚めへと流れています。^{てんしどう}転生は愛の目覚めへの旅路とでも言いましょうか、

壮大な営みです。

愛は頭では分かりません。心でしか分かりません。

心を見ていきましょう。正しい瞑想を重ね、日常化していきましょう。それしかありません。決意と実践が重要です。

宇宙に向けて語り掛けていきましょう。発信していきましょう。

「あなたは愛です。私もあなたも愛です。一つです。」

②「直感」

直感 「最初に意識ありき。意識は愛、愛はエネルギー、波動、パワー、エネルギーは仕事をする。愛は無限、永遠に存在する」は、どうしてなのか。

私が二十歳前後の頃、マックス・プランク著『自然科学と宗教』を使ってドイツ語の授業を受けた。宗教は「はじめに神」が、科学

は「後に神が」と述べてあつたと思います。また、当時、若い者の間で、「宗教と科学は両立するか」をテーマにして盛んに討論が行われていました。しかし、私は、どちらかと言つと宗教的な生き方をしていました。聖書、般若心経などがいつも手元にありました。

四十七歳が転機になりました。自分の思いが声となつて響いてきました。「私が説いてきた愛は贋物にせものだ」と。全く白紙に。そして、母親の反省、瞑想となっていきました。その時から、何か自分が知りたいことが、真実が、分かつてくると思うようになつてきました。そして、直感がとなつてきました。後は、耳を傾けてくれる人がいれば話していきました。そして、仮説、実験、実証、確信と進んでいきました。

現在は、どうしても意識の転回と愛の覚醒を中心から思っています。死ぬまで、そして、死んでからも、正しい瞑想と愛のエネルギー

の確認と愛の覚醒を伝えていこうと思つています。

意識の流れを確信してください。次元移行を共に果たしていきましょう。

「あなたは意識、愛である」ことを確信する道を、ひたすらに進んでいてください。

「私の仮説」「直感」の文章を読まれてどうでしたでしょうか。難解な言葉は何一つ使わていませんが、中身、内容はずつしりと重いです。

田池留吉氏とともに、十年、二十年、三十年と学んでこられた人達は別として、初めてこれらの文章を読んだ人達や、田池留吉氏について、そして学びのことについて、殆ど知らない人達にとっては、文中、「肉」「意識の流れ」「次元移行」「意識の転回」「愛の覚醒」「正しい瞑想」「宇宙に向けて語り掛け

る」という言葉や表現は、少々勝手が違うという感は否めないかもしれません。しかし、そういうことは、読み進めていつてくださいれば、段々に自分の中でなじんでくると思います。

まずは、本書をざつくりと読んでみてください。一つの章の中で、一行開けて文章を区切り、文頭を大きく太字で記しています。そのうちどの箇所でも、何か心に感じるところがあれば、そこを何度も、何度も読み返してください。できれば本書の他に、『意識の流れ』『意識の転回』『磁場と反転』『あなたは愛です』等の書籍も活用して、本書の内容をぜひ心で分かつていただきたいと思っています。

そういうことですので、初めて本書と出会う人で、前記の文章の中身、内容が、自分の心の中にストレートに入つてくる人がいるとは、率直なところ期待しておりません。

仮にそういう人で、この文章を読んだだけで、うーんなるほどと頷き、本

当に心から共鳴できる人であるならば、きっとその人に注目していくでしょうが……。

そうかと言つて、そんなに難解なことではないんです。犬や猫などの人間以外の生きとし生けるものはみんな知つていることなんです。

ただ、人間は、頭で考えますから、その分、眞実を遠ざけているだけのことです。

先ほど田池留吉氏とともに、十年、二十年、三十年と学んでこられた人達と書きましたが、その人達の中にも、まだまだ頭を回している人達を見受けます。学びの内容を頭で理解しようとするのです。それでは田池留吉氏が本当に言わんとするところは絶対に分かりません。

頭ではなく、心で分かつてくださいということなのですが、私達はどうしても頭を優先させてしまう傾向にあります。

文中にもありました、本当のことは私達の頭では絶対に分かりません。

しかしながら、正しい瞑想というものを重ねていけば、老いも若きも、男も女も、国籍がどうであれ、肌の色がどうであれ、人間みんな分かることなんです。ただ、正しい瞑想を知らないから、あるいは、正しい瞑想ができないから、この文章の中身、内容を、本当に心から感じて知っていくことができないとということになってしまいます。

当然、その人達は、今現在不幸なんです。たとえ、巨万の富があり、権力、知力等に恵まれた状態であつても不幸です。一番肝心な自分とは何かを知らないからです。

この辺りのことをご理解いただくことはなかなか難しいと思いますが、それを重々承知のうえで、こうして長い年月ともに学びを進めてきた人達も、今日初めてこんな世界があることを知った人達も、みんな、みんないつしょに、自分達の本質である愛に目覚めていこうということなんです。

目覚めていきましょうと、誰か一人が呼び掛けているのではなくて、そう

いう方向に、今、^{しゆくしゆく}瀟々と流れている「意識の流れ」というものがあることを田池留吉氏は伝えてくれました。

この田池留吉という人について、一介の老人とだけ紹介しましたが、ここで、もう少し付け加えておきます。

田池留吉氏は御歳八十八歳です。大阪府立高等学校の校長職を、その定年まであと一年を残す時期に退職され、それ以後、宿泊を伴うセミナーを、月一回、あるいは二回のペースで、全国各地において開催されてきました。近年は諸事情から、セミナー開催地を一箇所に定め、回数も年に五回となり今に至っていますが、それも二〇一四年（平成二十六年）十二月に開催予定のセミナーが最後ということになりました。

田池留吉氏が、これまでと同じ規模のセミナーで、とともに学んでいくといふことは、一応それで終了ですが、もちろん、その意識は、田池留吉氏自身が書かれているように、死ぬまで、そして死んでからも、眞実の世界について真つ

直ぐに伝えていきます。

さて、田池留吉氏が開催してきたセミナーの主旨は、「私の仮説」「直感」にみんな記されていると書きました。

また、田池留吉氏は、常々、「学びは人生です」と言わっていたので、それらの文章に綴つづられていることは、セミナーの主旨と同時に、氏の人生の姿勢でもあります。

セミナーで伝えていた内容については、頭を重視してきた私達には、最初はどうしても面食らうというか、違和感、抵抗感があるというのが率直な感想だと思いますが、その一方で、なぜか心惹ひかれるということなのでしょう、セミナーに参加する人が、段々に増えていきました。ただ、田池留吉氏が伝えようと世界は、いわゆる宗教、哲学、精神世界の範疇はんちゅうに入るべきものではなく、使われている言葉や表現は同じでも、中身、内容は全くそれらとは異質のものであるということを、それぞれの心で分かつていくことが、

どうも難しいということでした。

言い換えれば、既存の宗教、哲学等の枠内で、そして、その延長線上でどちらえている人が多いというのが現実なのかもしれません。

田池留吉氏が伝えようとしている世界は、欲と全く合わない世界です。

心で分かろうと思えば、欲で満たされた自分の心を自ら変えていく必要があります。そして、その点をクリアしていけば、田池留吉氏の指示示す方向には、ただただ喜びだけが存在していることが、どなたの心にも感じられるようになつています。

そうです。**肅々と**^{しゆくしゆく}流れている意識の流れの中に、本当はみんな存在しています。

自分の本質である愛に目覚めていけば、ともにある喜びと幸せというものが、どなたの心にも響いてきます。

それが本当の温もりなんです。本当の優しさなんです。そして、本当の安らぎと言えると思います。

ここを感じ知つていけば、日々の生活の中で、心が揺れることがあつても、静かに丹田呼吸の一つ、二つをしているうちに、自分の心に響いてくる世界にすつと戻つていけるようになつてきます。

心を揺らす出来事がどんなものであつても、決していつまでもマイナスとして自分の中に留めません。^{ヒビ}つまり、いつまでも苦しみ、悲しみ、嘆き、悔やみ、悩んでいくことはないでしようということなんです。

形の上からはマイナスに見えることも、それとは裏腹に、そこから、ともに愛へ帰つておいでという優しさ、温もりを感じるからです。その呼び掛けというか思いが自分の心に響いてくるんです。

しかしながら、現実は、なかなかそうはいきません。生活の中で、悲しいこと、辛^{ツラ}いこと、許せないこと等々のいわゆるマイナスの現象が起こってくれ

ば、大抵の人は、目の前の出来事を現実のものとして受け入れることにまず時間を要します。そして、受け入れなければと思いつつも、受け入れ難い現実を目の前にして、自分の中の時間がそこで止まつたかのように、いつまでも、その現象にとらわれていきます。

そこから先へ自分を進めていけない苦しさ、辛さ^{つら}、やるせなさを味わつていく人が多いと思います。しかし、それでも生きていかなければならぬので、目の前の表面的なことで、一時的に自分の心の苦しさを誤魔化^{ごまか}していきます。心を紛らわせていくしかないのです。

よく、時が解決してくれると言われていますが、心の中の傷は、しこりとなつて、芯となつて依然として残り、やがて人は死を迎えるのです。

そして、死んでしまえば、そういうことも、ああいうことも、みんな忘却の彼方^{かなた}になるかと言えば、決してそうではありません。

自分の出してきた思いというものは、きちんと清算しなければ永遠に残つ

ていくんです。

しかし、誰も、そんなことを聞いたことはないと思います。そうです。誰一人、そんなことをこれまでに教えてもらったことはありませんでした。そういう中で、「自分達の本質は、意識、波動、エネルギーであり、永遠に存在するものだ」と、田池留吉氏は、真っ直ぐに伝えてくれました。

それが、今から遡ること、三十年余り前のことでした。

田池留吉氏のもとで、長い人で三十年余りの年月、学んでこられたという経緯があります。

そういう人達、今日初めて本書を読まれた人達、あるいはごく最近学びに集つてこられた人達と、色々あると思いますが、眞実に目覚めていくタイミングは、そういうことにあまり関係がないことを含んでいただきたいと思つています。

要は、その人が、いつ、どれだけ眞摯^{しんし}に素直に、本当に自分と向き合うか

ということなんです。それを、ふるさとの替え歌の歌詞で言えば、自分と約束してきたことを、いつ、自分の中でしつかりと思い出していけるかということなんです。

もちろん、自分と交わした約束があつたなんてことは、あなたの頭に記憶されている訳ではありません。しかし、あなた自身は、意識のあなたは知っています。

そのあなたと、真摯^{しんし}に素直に向き合いましょう、向き合えるようになつてくださいということです。

ところで、私自身も「私の仮説」「直感」の文章を何度か読ませていただきました。そして、心を向けてみました。以下の文章は、私の心に響き伝わってきた思いです。その思いを、私は日本人だから日本語で表現しています。

もし、私がドイツ人ならばドイツ語で、中国人ならば中国語で表現します。この作業をチャネリングと言います。頭で構想を練つて書き上げたものではあります。そして、これは、概ね本書全体に言えることだとして理解ください。

① 「私の仮説」を読んで

私は、田池留吉の意識です。初めに意識あり。愛はエネルギー。愛はパワー。愛は温もり。愛は永遠。そんな言葉を、私は田池留吉の肉を通して、皆さんにお伝えしてきました。

そして、その言葉通りに、私は仕事をしてまいりました。

心の中の喜び、温もり、愛のエネルギーに目覚めましょう。

私達の本当の姿は愛なんです。私は、そのような思いのまま、セミナーを続けさせていただきました。

そして、私の仕事は順調に捲つています。私は、今、この肉を持つております。

ますが、私の姿は目に見えません。そんな私の意識の世界に心を向けてくだ
さいと、肉を持った皆さん方に語り掛けてきました。

とても、とても、難しいことを語り掛けできました。
しかし、皆さんは、たくさんの現象の中で、たくさんの転生てんしょうの中で、この
ことに目覚めていくことについて、強い決意のもとに、肉を持ち、そして私
と出会い、この学びをしてきた人達なんです。

その人達に向けて、私は、死ぬまで、最後の最後まで、「私は愛です。愛は一つ。
私達の世界は一つ」、そういうことを語り掛けていきます。

もちろん、死んでからも、このメッセージを波動として、エネルギーとし
て流し続けていきます。

私の波動を、どうぞ、ご自分の心で感じてみてください。

波動、エネルギーは、あなたのの中に、あなたの心の奥底に届いているはず
です。

その波動、エネルギーの世界を、あなた方が、どれだけ自分のものとしていくか、自分の中を目覚めさせていくか、自分の中の愛を目覚めさせていくか、それは、ひとえにそれぞれにかかるつています。

たくさんの転生^{てんしゅう}を重ねてきたあなたの方です。

どうぞ、しっかりと、今一度、心を見ていきましょう。

自分達の本当の姿を自分の中ではつきりと分かるような、そんなあなた方になっていただきたい。私は、今、このよだなメッセージを送っています。

田池留吉の意識の世界は、波動、エネルギー、愛のエネルギー。すべてを癒^{いや}していきます。すべてを愛へ、愛へといざなっていきます。

そのパワー、そのエネルギーは、確かなものとして、宇宙へ、宇宙へ流れていっています。

そして、次元移行という意識の流れの中で、この愛のエネルギーは、益々現象化していくでしょう。

目覚めを起こしていく現象化です。

天変地異という具体的な現象が、皆さん目の前に待っています。

それはすべて、愛のエネルギーです。喜び、喜びのエネルギーです。プラスのエネルギーです。マイナスではありません。しかし、肉を持った意識は、すべてをマイナスとしてとらえていきます。

マイナスは、マイナスを呼んでいきます。だから、天変地異は、段々、段々、そのエネルギーを大きくして、目覚めてください、愛に目覚めてください、あなたの方の本当の姿に目覚めてくださいと、すべての意識達に呼び掛けていくでしよう。

このことは、皆さんの中の中に、もう、すでに届いています。

どうぞ、心を向けてください。田池留吉の世界に心を向けてください。

田池留吉の世界は、一つです。ただただ一つの世界。愛のエネルギーの中には、あつた私達だということを、どうぞ、どうぞ、心で気付いて、気付いて、そ

して、感じて、感じて、心で感じたものを信じていてください。

私は、今、すべての意識に呼び掛けています。

すべての意識に愛のエネルギーを流し続けている存在です。

田池留吉の存在は、あなたの心の中に、時には優しく、時には厳しく、時には激しく、そして、いつも、いつも優しさと温もり、喜び、そんなエネルギーを流しているんです。

どうぞ、心を見ていきましょう。

ところで、私は、求心的、遠心的という言葉を使って、意識の世界、愛について、説明をさせていただいています。

求心的とは、自分の心の中に針を向けて、自分の中の愛を求めていく姿勢、生き方、存在の仕方、そういうことを指しています。

その反対は遠心的です。肉という形の世界のみに、喜び、幸せ、自分の存在を求めて彷徨さまよい続けていく人生、そういう生き方、そういう存在の仕方を

遠心的と、私は表現させていただきました。

遠心的に生きるとは、自らを地獄に突き落としていく生き方です。

幸せ、喜びをと求めているようですが、それらは全部自らを破壊していきます。いいえ、自分だけではなくて、自分の周りの人達、そして、この宇宙すべてを破壊していくんです。そのエネルギーを自分の中からどんどん、どんどん垂れ流していきます。

遠心的な存在の仕方は、自分に、大変冷たいです。すべての意識達に、大変冷たいです。破壊、破滅、墮落、そういうエネルギーを流し続けているということです。

どうでしょうか。そう思えば、地球人類殆どすべての人達が、遠心的な生き方をしているのではないでしょうか。

政治、経済、文化、教育、ありとあらゆる分野で目覚ましい発展、進歩を遂げてきた人類の歴史ですが、しかし、その果てにあるのは、いつたい何でしょ

うか。

愚にも付かないことばかりに、自分の時間とエネルギーを費やして、そして、すべてを破滅、破壊の中に引きずり込んでいく生き方、遠心的な生き方をされていることに、一日も早く、本当に一日も早く気付き、そして、自分を、自分の歩みを求心的な歩みに変えていきましょう。

待ち望まれています。待つて、待つて、待ち尽くされています。

心中を見ていきましょと、私はずっと、最初から伝えてきました。

心を見るということは、とても大切なことです。いいえ、これしかないんです。

人類は自分を知らずに、ずっとずっと、長い、長い転生てんじょうを繰り返してきました。自分の心とはいつたいて何でしようか。自分とはいつたいて何でしようか。

自分の本当の姿を捨て去り、忘れ去り、それでもなお、幸せを、喜びを、真実をと狂いに狂ってきた人類の歴史の中で、ようやく、ようやく、人類に

ほんの少し明るい兆しが見え始めてきたんです。

それが、今世、この田池留吉の世界に触れ、この真実の歩みを進めていくこうとする今という時です。

どうぞ、心をしっかりと見ていくください。

肉、形を本物とする基盤から、自分の中の愛を捨て去り、忘れ去り、どこへ、何を求めてきたのでしょうか。本当にしっかりと自分の心を見つめていてください。

それが、この学びに集い、自分を学んでいこうと決意を秘めてきた人達の仕事なんです。

自分を知っていく。それが、とても、とても大切なことです。

自分を知っていきましょう。自分の流してきたエネルギーを感じていきましょう。そして、本当の自分の存在に気付いていきましょう。

本当の自分とは何でしようか。

愛のエネルギーを心に感じて、そして、その本当の自分の姿を自分の中でしつかりと確認していくこと、そのためには、今の肉体を持つて学びに集つてきたことを、心でしつかりと感じていってください。

もちろん、私は、今、学びに集つている人達だけにメッセージを発してい るのではありません。

肉を持つ意識、持たない意識、そして、今、学びに集つていない意識、これから二五〇年、三〇〇年の間の^{転生}を経て、私達と出会う意識、そういうすべての意識達に、私は、愛のエネルギーに目覚めてくださいと、心を向け語つています。

愛は流れています。真実の世界は、今、滞りなく、順調に流れています。次元移行という意識の流れの中を、どうぞ、しつかりと、しつかりと自分の心で感じ、そして、感じた心を信じて、一歩、一歩、自分の歩みを前に、前に進めていくようになさつてください。

私達は愛です。すべては一つです。愛のエネルギーの中で、私達はすべて一つなんです。このことを心から信じられるようなあなたに蘇よみがえつていくこと、それが、これからもずっと、ずっと待たれています。

「私の仮説」の冒頭、私は、直観的に物事をとらえようとする傾向にあると書きましたが、それは、田池留吉の意識の世界からのものだと感じています。

私は、自分の実験、体験を経て、自分で中で確信を重ね、重ねて、「愛は存在する。すべてが愛。愛のエネルギー、波動の中にすべての意識達が存在する。愛しかない。宇宙には愛しか存在しない。愛はエネルギー、愛はパワー、愛は永遠なり」、そういうことを私はこの肉を通して伝えてきました。

田池留吉の意識の世界を心に感じてくださいと、今、真っ直ぐに私は伝えます。こうして、田池留吉の世界が肉を持った今こそ、眞実の世界を心で知つていく絶好のチャンスなんです。そのチャンスを、皆さん、それぞれに自分で作つてきたとお考えください。

そして、そのチャンスをしつかりと活かしてまいりましょう。

しかしながら、それもまた、それぞれ皆さんにかかっていることも、いわゆる自己選択、自己責任のもとであることも、私は重ねてお伝えしておきます。たくさんの、たくさんの現象。たくさんの、たくさんの転生。

すべては愛の中の出来事です。すべては眞実に目覚めていくための出来事です。

心して、そして、喜んで、喜んで、真正面から受け取ってください。

すべては愛に帰るため、ただひたすら愛に帰るため、本来の自分の状態を取り戻すため、蘇よみがえらせるために、自ら設定してきた出来事です。

すべては喜び。愛の中にしか私達は存在しません。なぜならば、私達自身は愛だから。

その愛を心で感じ、心で知つてください。心で感じ、心で知つたことを信じて、信じて、これから存在してまいりましょう。

私達は、この愛のエネルギーの中で、しつかりと自分を見つめるために、今、
このようにして存在していることを、心で感じてください。

瞑想、正しい瞑想をお伝えしました。

これしかないです。肉を持った意識達が、肉を本物としてきた長き転生、
その長き転生てんじょうの中で培つてきた他力のエネルギーを、しつかりと自分の中でも見
つめ、そのエネルギーを愛に帰すたつた一つの方法が、正しい瞑想です。正
しい瞑想を重ねていくこと、それしか方法はありません。

心で、心で分かることです。心で、心で感じていくことです。

実験、体験、実証、確信を経て、すべては愛の中にあつたことを、どの方も、
どの方も心で感じていってください。

最後に、私は「宇宙に語り掛けましょう。発信していきましょう」という
言葉で締めくくりをさせていただいています。どうでしょうか。

ご自分の心を宇宙に向けて瞑想をされているでしょうか。宇宙を思つてみ

てください。あなたの中の宇宙です。宇宙は待っています。たくさんの、たくさんの宇宙。たくさんの、たくさんの肉を持たない意識達。

ともに歩いていきましょうとあなたの心の中で、呼び掛けていつてください。

まず、あなたが、ご自分が愛であること、愛のエネルギーであるご自分だと心に確信したならば、その愛のエネルギーを宇宙に向けて流していつてください。

簡単です。宇宙を思えばいいんです。「私は愛です。あなたも愛です。私達は一つです」、このメッセージを宇宙に向けて、どんどんどんどん流してまいりましょう。

私達は喜びです。喜びで存在していることを、どうぞ、心で感じていってください。

「私は、宇宙へ、宇宙へ、愛を流す存在である」、そのように確信できるあなたは、

どれだけ幸せであるか、私はあなた方の心の中に伝えます。

私、田池留吉の意識の世界と出会い、ともに、ともに歩みを進めていけることを喜んでいつてください。

宇宙は愛へ向かつて、次元移行をしています。

次元移行の意識の流れの中で、すべては愛に帰るエネルギーであることを目覚めさせていく、その時間と空間を用意してきました。

これから、さらなる喜びが待っています。どうぞ、すべてを喜びとして受け入れてください。すべてを喜びとして、受け取つてください。

愛を発信していきましょう。愛は愛をさらに大きくしていきます。

愛は愛を目覚めさせていきます。

愛しかない世界、愛しかない波動の世界を、どうぞ、心で存分に感じていてください。

私達は愛でした。ともに、ともに歩める喜びの存在でした。

私は、初めに意識ありき、そのように皆さんにお伝えします。

愛が初めでした。初めも終わりもありません。ただただ愛があるだけなんです。その愛が全く分からなくなつた人類にとって、私は、とても難解なことを伝えてきたと思います。

しかし、心で感じ、心に目覚めていく意識達の存在を、私はここでしつかりと伝えていきたいと思います。

変わつてまいります。宇宙は変わつてまいります。次元移行へ、着実な歩みを進めている宇宙の喜びを、愛のエネルギーの中で、どうぞ、それぞれの心で感じていってください。

宇宙を思う瞑想です。宇宙へ愛を流せる存在だという確信、その確信を経て、ともに、ともに歩いていける意識であることを、私はいつも、いつも伝えています。

どうぞ、心を見ていくことから始めましょう。心で感じることから始めま

しよう。

瞑想、正しい瞑想をして、この喜びの波動を心で感じていってください。
私はそのことだけをお伝えします。

これからさらに、宇宙が変わつてまいります。宇宙に愛が流れ出している今、
宇宙からの呼び掛けも、さらに、人類に届いてくるでしょう。

ともに、ともに、歩める喜びだけが存在します。

次元移行へ、ともに、ともに歩いてまいりましょう。心中から私はその
ようにお伝えします。

②－1 「直感」を読んで

初めに意識ありき。そうです。私達の存在は意識、愛のエネルギー。

文章は、宗教と科学について触れていましたので、そこに焦点を当ててみ
ます。

そもそも、宗教と科学は両立するかという議論は論外です。

宗教の世界はもちろんですが、人類が科学の世界だとしている科学の世界も、実に小さな世界です。

もともと何もありませんでした。すべては意識、波動、エネルギーです。愛しかないんです。愛のエネルギーだけが存在します。

そのエネルギーが仕事をして、科学と呼ばれている分野があります。確かに、科学の世界を純粹に求めていけば、愛のエネルギーに到達します。

しかし、人類の心の中では、その純粹ということが分からなくなりました。純粹とは、自分の本当の姿を知ることにあります。しかし、そのことは、肉、形を本物とする基盤の上からは全く不可能です。

自分の本当の姿は意識、愛のエネルギーです。

科学＝愛のエネルギーという観点から、すべてを見ていかなければなりません。

科学の世界を、肉、形を基盤とするところから見ていては、純粹な本来の科学の世界ではありません。だから科学の世界に神という発想が出てくるのです。

そして、宗教の世界に至つては、全く論外です。

宗教とは、人類の欲が作り出した世界だからです。

その宗教の中の神というものは、ブラックのエネルギーに間違いありません。それは、愛のエネルギーとは、全く相反するものです。

愛のエネルギーの中では、宗教の世界で言うところの神など、全く、全く小さな世界です。いいえ、小さな世界と言ふに留まらず、^{とど}ブラックのエネルギーを愛のエネルギーに向かつて流し続けてきた愚かな心の中を、人類は、もつと、もつと知つていかなければならぬでしよう。

話を元に戻しますが、愛のエネルギー、自分の本当の姿を心で知つていつたならば、科学の世界は、もつと躍進的に広がっていきます。

自分達の本当の姿が意識、愛のエネルギーであるという観点から、科学する心を、大きく、大きく育てていけば、それはまさに愛のエネルギーと合致していくんです。

これまで、人類が科学と呼んできた、呼んでいる世界は、ちっぽけな世界です。

肉、形を本物とする基盤から、どんなに科学的な発想を生み出そうとも、その世界は、とてもちっぽけな世界です。

だから、その科学の世界が、人類に大きな進歩発展をもたらすかと言えば、決してそうではありません。やがて、人類が探究してきた科学の世界は弊害を起こしていきます。

すなわち、そこには、ブラックのマイナスのエネルギーが働いているからです。

愛に目覚めていない中で、科学万能の時代だとすることは、とても危険な

ことです。危険というのは、おごり高ぶつた愚かな人類の心の世界が、これから、色々な形で示されていくということです。それも、また自然災害に代表される天変地異と言えると思います。

そこで、人類は、意識の転回、愛の覚醒、何としても、このことをクリアする以外にないんです。愛のエネルギーの確認です。

そして、意識の転回と愛の覚醒を果たしていくには、人類にとって、天変地異という現象は避けて通れない現象です。

天変地異こそ、それをクリアする最後の最後の手段です。どうしてもそこに行き着きます。天変地異が^{おの}自ずと起こつてくるのは、意識の流れが^{げんせん}厳然として、^{しゆくしゆく}肃々として流れているからです。

意識の流れは、次元移行を指しています。そして、意識の転回、愛の覚醒を促しています。そのため、天変地異は、必ず、必ず、起こつてくる現象です。それほど、肉を本物とする思い、そのエネルギーが人類の心の中にこびりつ

いていると言つていいでしょう。もう、そのことを促していくのには、天変地異の現象しか残つていません。はつきりとそのように申し上げてもいいかと思います。

意識の転回と愛への目覚め。本当の自分の覚醒。それが意識の流れの中にある人類の本来の道なんです。

愛しかない中で、宗教の世界にしろ、科学の世界にしろ、愛以外のものを求めてきた愚かさに、人類は自ら気付いていく以外にありません。

そして、気付きを促されるのは、愛のエネルギーがそこにあるからです。間違つてきたものは愛のエネルギーによつて、本来の姿に帰つていくんです。これこそ、愛のエネルギーが存在する証^{あかし}です。

人類が作つてきた宗教の世界も、科学の世界も、すべては愛のエネルギーに帰つっていく流れの中にあることを伝えておきます。

さらに、私は今一度、「直感」という表題がついた文章に心を向けました。「意識の流れを確信してください。次元移行と共に果たしていきましょう。『あなたは意識、愛である』ことを確信する道をひたすらに進んでいくください」という文章で終わっていました。

②－2 「直感」を読んで

ともに、ともに歩いていける喜び。そして、私達はずつと、ずつと、田池留吉、真実の方向、本当の自分、愛のエネルギー、その方向に心の針を合わせていきます。そうすることが私達の喜びだからです。

私達は喜びの中に存在している、愛の中に存在している意識。

田池留吉に心の針を向ける、合わせる、その喜び。その大切さ。それだけが、心にしつかりと残っています。

どんなときも、いついかなるときも、田池留吉を忘れてはならないことを教えてくれた母の思いが、今、心に伝わってきます。母の思いです。母の意識です。母に伝えていただいた。愛のエネルギーの中にあつたことを伝えていただいた。初めから、初めから伝えていただけでした。

そんな私自身を、今、心に感じ、田池留吉のほうに心を向けるとき、メッセージージが来ます。

「ともに、ともに歩いていきましょう。愛を思い、愛の中にある自分達を思い、そして次元を超えていきましょう。私達は愛です。愛である私達が、今、今、ともに、ともに歩いていける喜びをお伝えします。

愛のエネルギーしか存在しません。愛のエネルギーがすべてを成していくんです。愛のエネルギーが仕事をしていきます。愛のエネルギーが仕事をしていくからこそ、すべての意識が次元を超えて進んでいけるような計らいの中にあります。それが意識の流れです。

意識の流れの中に私達はあつたことを確信できるその道。その道は喜びの道。喜びの道は、ずっと、ずっと続いていきます。永遠に続いていきます。これが愛へ帰る道。愛は私達。本当の私達。

本当の私達に帰る道を、ただひたすらに歩いてまいりましょう。」

そんなメッセージが、絶えず流れています。愛の中で、そのメッセージを受けていける私達は喜びです。

田池留吉氏が綴つた文章、「私の仮説」「直感」と、その文章に心を向けて受信した①、②ー1、②ー2の文章を読んでいただいて、それらの内容から、田池留吉氏のもとで、三十年余り学んできた、学びの概略が分かると思います。

1. 私達人間は、目に見えて、耳に聞こえて、触れることができる形ある

世界（肉の世界と言います）が本物だとしてきたこと。

2. それが、唯一、最大の間違い、誤りだということ。
3. よつて、速やかに意識の転回をすべきだということ。
4. そうすれば、次元移行という意識の流れを感じることができる。
5. そして、自分の中の愛に覚醒し、ともに次元移行を果たす。

というのが学びのポイントです。つまり、「意識の転回」と「愛の覚醒」が人生の唯一、真の目的ということになります。

さらに付け加えるならば、「天変地異」というキーワードです。

肉、形の世界を本物の世界だとする思いは、人間の心の中にこびりついてしまっているから、そのお掃除は並大抵のことではできません。

肉、形を本物とする思いから、意識を本物とする思いへ、自分の意識の世界を変えていく作業、その作業を意識の転回と言っていますが、それは確かに

に難しい作業です。

しかし、その一方で、意識の流れというものは厳然としてあり、今まさに、それは肅々として遂行されています。ということは、人間の心の中にこびりついてしまっている思いを一掃するために、想像を絶する規模の天変地異という切り札が、私達に用意されているということです。

私達は、まず、田池留吉氏から、自分の心を見るということを教えていただきました。

自分の心を見るとはどういうことでしょうか。

自分の心の中に色々な思いが上がってくることは、分かると思います。

怒りだとか、憎しみだとか、妬み嫉妬、競争心、責め裁き、支配欲、その他人間の心の中は本当にたくさん思いが交錯し、複雑怪奇です。

その人間の心模様は、程度の差こそあれ、ご理解いただけるかと思います。

しかも、それらは、ある一定の条件、環境のもとでは、人として当然に出でくる思いだということで、ある程度、市民権を得てているから大変です。つまり、それがそもそも間違いのすべてなんだということは、誰一人考えもしませんでした。

私達は、寝ている時は別として、起きて日々、見て、聞いて、人と接してという生活の中では、みんな自分の中から、色々な思いを無造作に出していくます。しかも、出している思いがどんな思いなのかは、全く無視した状態です。次から、次へと思いを吐き出し、毎日、毎日を過ごしているのが殆ど(ほどん)人の現状です。

それで、何とか、何とか、幸せな、豊かな人生をと望んでも、本当の意味で、幸せで豊かな人生は望めるはずはないんですが、そのことが全く分からない私達になってしまいました。

そんな私達にも、みんな、それぞれの人生のどこかで促しがあり、気付き

のチャンスがあります。しかし、目に見えて、耳に聞こえて、触れることができる形の世界（肉の世界）が本物だと思い込んでいては、本当は何を促されていて、何に気付いていかなければならなかつたのかというところまで、そのチャンスを活かすことは、残念ながらできません。

だから、せっかく生まれてきたのに、殆どほとんの人達が、本当の人生、本当の自分を知ることなくして、また死んでいかなければならぬんです。

それは全くの不幸せな人生です。それはそうでしょう。本当の自分を知らずに死んでしまうのですから。

たとえ、金と権力を欲しいままにした人生であつても、全くの不幸せな闇黒の人生です。しかし、人間といふものは、金と権力に群がる習性があります。それさえ手に入れれば安泰だとと思う習性です。

神か仏か何とかのパワーか知りませんが、摩訶不思議まかふしきな力を求めていくのも、その習性があるからです。そういう転生てんじょうばかりを繰り返してきたのが、私

達人間だつたんです。

あなたは、転生輪廻という言葉を聞いたことがあると思います。そして、

輪廻から解脱するということも、どこかで聞かれたかもしれません。

ただし、私達はこれまでずつと間違つた輪廻の中にあつたんだということには、誰一人気付けませんでした。輪廻そのものが間違つてきたんです。だから、どんなに手を尽くし、力を尽くしても、絶対に、本当の幸せ、本当の喜びなど分かるはずはなかつたんです。

間違つた輪廻の中にあつて、真実の世界を知つていくことなど全くのナンセンスなことでした。

そして、私達は、今という時間を迎えています。その中で、私達は、もうこの辺りで、本当の人生を生きましよう、本当の自分との出会いを果たして、本当の幸せ、本当の喜びを知つていきましょうという流れがあることを伝えてもらいました。その流れを「意識の流れ」と言つています。「私達は、その意

識の流れの中にあるんです。間違った輪廻^(りんね)を解消して、本来の軌道、すなわち、愛から出て愛に帰る軌道に乗つてください」と、田池留吉氏は伝えてくれたのです。

まず、どなたも自分の心を見るということをしていかなくてはなりません。

自分の心を見て、自分の心が苦しかったということを知つていかなければなりません。苦しい自分の心を認めていかなければなりません。

次に、なぜ苦しんできたのか、この苦しみの原因はどこにあるのかということも、心を見る、すなわち自分の出してきた思いを見ることによって、知つて、それを素直に真摯^(しんし)に認めていくことから始めなければならないでしょう。

つまり、苦しみの原因を自分之外に求めていくのではなく、自分の中に苦しみの原因を探つていく必要があるんです。

そうです。今、現実に苦しんでいるのが自分ならば、苦しんでいる自分自身に原因があるんです。つまり、それは自分の心の使い方、心の向いている方向が間違っているから、自分は苦しいんだということが分かつてこなればなりません。

しかし、殆ど^{ほとん}の人は、決してそうは思えません。自分が間違っているなんて思えないんです。どこまでも、自分の正当性を主張していきます。

正しい自分がなぜ苦しんでいるのかという点を、追求せずにおざりにして、相手が悪い、あるいは社会が、何々がと、常に、自分の外に批判攻撃の思いを投げつけていきます。自分は全くの被害者なんです。

それが世の常というのですが、やがて、そういう人達も、自分がどんな思いを出してきたか、出しているかを確認していけば、自分の心が苦しいということにも、なぜ自分の心が苦しいのかということにも、自^{おの}ずと気付いていくようになっています。

そして、時間はかかるかもしませんが、苦しい自分が間違っているんだと、自分の間違いに心から納得し、自らを修正するようになつていくんです。なぜならば、私達の本質は愛だからです。愛には、愛に目覚めさせていくパワーがあります。

苦しい人生は本当の人生ではありません。人生は喜びなんです。

愛である本当の自分からの声、思いを真摯^{しんし}に受け止めて、本当の人生を生きましょう。そして、人生は喜びなんだと、心で知つてください。

自分がどんな思いを出してきたか、出しているかを確認してください。

思いというものはエネルギーなんです。エネルギーだから仕事をするんです。良きにつけ、悪しきにつけ、仕事をします。その自覚が、私達人間には全く欠けていました。

思うということはとても大切なことなのに、私達は、思うということを、

非常に軽く見てきました。というよりも、正しく思うことができなくなつてしまつたんです。正しい心の使い方、正しい心の向け先を知らずにきました。心で何を思おうとも勝手、自由ではないか、思うだけならば誰にも迷惑がかからないとして、心の向け先の管理を杜撰ずさんにして、疎かおろそにしてきたんです。

私達は、鏡に映る姿、形を指して、自分だと思つています。自分は目に見えるものだと思つています。私達はみんな自分を見誤つているんです。しかし、誰も自分を見誤つているとは思つてきませんでしたし、今も、もちろんそういうです。

私達人間の判断の基準は、肉、形の世界にずっとありました。

みんな肉、形を本物とする思いが基準（肉基準と言います）となつています。その基準で、何の不思議もなく毎日の生活を送つてているんです。鏡に映らない心の管理はなおざりにして、鏡に映る形ばかりを追つていく生活です。

しかし、私達人間を含むすべての存在の本質は意識、波動、エネルギーだ

というのが真実なんです。自分の本当の姿は目に見えないんです。自分が発信しているエネルギーに、もつと注目しなければなりません。

まさしく初めに意識ありきなんです。意識が基準とならなければなりません。意識を基準として、物事を見て判断していかなければならぬんです。そこに立ち返つていかなければ、物事の本質は見えてこないことを、田池留吉氏が綴つたA4用紙一枚の文章は語つていると思います。

そして、田池留吉氏の中の田池留吉の意識は、次のようなことも語っています。

「『私は神である』。私は、田池留吉の肉を使って、そのようにお伝えしていく時期がやつてきたと思います。

地球人類が『我是神なり』と言つてきた思いとは、全く次元が違うことを心で感じていただける方の出現により、『私は神です』という私の波動を、正しく受け取つていただされることだと思います。

私は今、肉を持つていますが、この肉もまもなくこの地球上から消え去つてしまります。私が肉を持つてゐる間は、肉の世界の定めにより、色々な言葉を発します。制約もされます。

しかし、肉が無い私から発するものは、言葉を通して流していきますが、それは、全く、今、田池留吉という肉を持つてゐる時のメッセージとは違つてくると思います。

全く無駄がない。その私の波動を正しく受け取り、メッセージとして送つてくださる方の出現を、私は待ち続けてきました。

私は肉を無くしたあと、私の仕事をすることを喜びとしています。

私の肉がある間に、私のメッセージを受けたとしても、私もまた肉を持つてゐますから、そのメッセージが、どの程度精度が高いのかは、今、はつきりとは申し上げられません。

しかし、それは、私が肉を無くしたあと、私の波動を正しく受け取つてい

ただけることは、本当に難しいことだということを通して、感じていかれる
と思います。

私は今、肉を持つています。田池留吉という肉は、私の世界を感じていけ
ばいくほどに、肉の自分の世界が小さいことを感じています。

だから、私はその肉を置いて、私の思いをストレートに届けていける喜び
だけをお伝えしたいと私に伝えています。

そろそろ、私もこの肉を離す準備をしていかなければなりません。

肉で学んでいる人達に、やはり私としては、そのことをはつきりとお伝え
することが大事だと思っています。

肉を離したあと、私は、メッセージを本当にストレートに届けます。

波動、エネルギー、ただただそれだけ。それをキヤツチできる方の出現を
私は、心待ちしておりました。ようやく、その準備を整えて、そして、私は本来
の仕事、本当に次元移行へ向かって突き進んでいく仕事ができることを、た

ただただ喜んでいます。」

私達人間は、大抵、自分の頭を信じています。

健康志向も相まって、そして、この日本の国では超高齢化の時代に入つて
いますから、身体を鍛えるとともに、頭も鍛えようという風潮です。

それはそれである程度いいと思いますが、それよりも、もっと、自分の心
を柔軟に素直に広げていきませんか。

そして、頭で納得できるものだけを信じようとするお粗末な自分に、さよ
うならをしていきませんか。

目は口ほどに物を言うとか、目は心の窓とか言われていますが、まさしく
自分の心の中の目で、自分をもつと素直に見ていきましょう。真向いになつ
て自分を見ていきましょう。

そして、自分の中から伝わってくる思いに、耳を傾け、心を傾けていける

ような、本当の意味で優しく賢明な人間に蘇よみがえつていきましょう。

それには、具体的にどうすればいいのかということにつきましては、先に挙げた『意識の流れ』等の書籍を参考にしてみてください。

そして、本当にやつてみようと思われるならば、しっかりと自分の動く心を見る習慣をつけて、自分の中から伝わってくる思いに、耳を傾け、心を傾けてください。

ただし、それは、ある意味、 苦しくて辛つらくてやるせないことなんです。

自分の中から伝わってくる思いはみんな、愛を捨てた結果の悲痛な心の叫びだからです。私達はみんな、愛を捨て、温もりを拒否し否定してきたんだから、その心の叫びは、それは、それは凄まじいものです。

一言で言えば、それは破壊のエネルギーです。闘争を繰り返してきた心の歴史は、どなたの中にもしつかりと刻み込まれています。

しかし、愛、すなわち本当の自分に帰るために、その心の中に風穴を開け、

固く封印してきたものを自ら紐解いていかなければなりません。

その道筋を、どなたもみんな通つていかなければならぬんだと言えます。

だから、ある時期、苦しんでください。そして、自分に絶望してください。

それでも、自分の中から伝わつてくる思いに、耳を傾け、心を傾けることを、焦らずたゆまず続けていけば、やがて、心の中に響いてくる優しさ、温もりを確認することができます。優しいなあ、温かいなあと。

自然に涙が流れてくるでしょう。溢れてくるでしょう。段々そういう過程を経ていけば、初めは何か分からなかつたけれども、ひよつとして、これが自分の中の愛、本当の自分というもののなのかなと思い始め、やがて、その実体験を重ねることにより、その存在を段々に確信していくと思います。そうなつてくれば、こんな幸せな時はない、自分の中が開けていきます。幸せを感じるのに、本当は何も要らなかつたんです。幸せも、喜びも、温もりもみんな、みんな、自分の中にあつたことが分かつてくるからです。

心の中の喜びも温もりもみんなあなたのものです。そしてまた、心の中の闇もあなたのものです。闇をどんどん喜びと温もりへ帰してやれるパワーがあなたの中にはあります。それが愛のエネルギーです。

愛のエネルギーの中に自分があった、私は愛そのものだったと心に蘇らせていくことが、あなたが、今その肉を持つてなすべきだった一つの仕事でした。

どなたの意識の世界にも、絶えず、このようなメッセージが流れているんですね。

しかし、殆どの方は、目に見える世界、つまり、自分の外に心を向けることに忙しくしてて、自分の中の声に、思いに心を傾けることなどしていません。心を自分の中に向けずに、外に向けた状態で生活をし続ける毎日です。そんな中で、突然に不都合な、不具合な現象が起こつてくると、当然の如くに我

を忘れていきます。そして、情報収集に時間とエネルギーを注いでいくだけで、心の管理はなおざりです。苦しいこと、悲しいこと、辛いこと^{つら}、悔しいこと等々のいわゆるマイナスの現象を、マイナスのエネルギーのまま心に留めてします。

その結果、時間の経過とともに、形の修復は可能でしょうが、心のほうは、そうはいきません。

心に留めたマイナスのエネルギーを、プラスのエネルギーに反転していく術^{すべ}を知らないから、どんなに時間が経過しても、苦しみ、悲しみ、悔しさ等々から、自分の心を本当に自由に解き放つことはできないんです。

それでは、本来みんな、プラスに反転していける愛のエネルギーの持ち主であるのにもかかわらず、そんな自分を知っていくチャンスを、またもや逸してしまつたということになります。

マイナスの現象を通して、自分の中のエネルギーを確認したならば、それ

をどのように自分の中でプラスに転じていくかが問題なんです。それが、それぞれの人生の本当の岐路と言えると思います。

だから、喜びと温もりの中にあった自分を知つていけるかどうかの分かれ道になる現象は、愛そのものだと言えるでしょう。

そして、マイナスの現象を通して確認した自分の中のエネルギーを、本当にプラスに転じていくには、自分の中の愛に帰つていくしかないのです。

ただ、愛に帰つていくと言いましても、自分の中に本当の愛があることを知らず、また信じられずでは、帰つていきようがありません。

だから、殆どほとんの人は、苦しみに沈んでいくだけです。彷徨さまよい続けていくだけです。

見た目は元あつた状態に修復されても、いいえ、それ以上に立派になつても、自分が帰つしていく本当の場所を知らない人達の意識の世界は、苦しみの連鎖が続していくのです。

その一方で、愛に帰つていく術を今世学んでこられた人達は、本当に幸せな人達だと言えます。

いやいや、まだまだこれからだという人達もいいんです。本書を読んでくださっているのだから、只今から、自分の中の愛のエネルギーを知つていく方向に、自分の一步を進めてください。

私達はみんな、思いの世界に存在しています。

私達は、肉体という形を持つていても、持つていなくとも、途切れることなく存在しているんです。

そうは言いましても、肉体という形の有り無しで、生きている、死んでいるとしてきた私達人間にとつて、自分は途切れることなく存在しているなんて、とても、とても理解できないでしょう。まさに、死んだら終わりがこの世の常識です。

本当は、生きていても、死んでいても、ただ自分の思いの世界に存在しているだけの私達なんですが、生きているということと、死んでいるということは全然違うと、殆どほとんの人が、そう思っています。では、こう表現しましようか。

思いの世界というものには、二通りあって、一つは肉を本物とする思いの世界、そして、もう一つは意識を本物とする思いの世界です。

その肉を本物とする思いの世界にずっと存在してきたのが、私達人間でしたと言えば、どうでしょうか。

当然、その中では、肉体という形の有り無しが大きく左右します。

肉を本物とする思いの世界からは、意識を本物とする思いの世界を窺い知ることはできません。肉基準うかがということは頭基準ということです。頭では、自分がずっと永遠に途切れることなく存在しているなんていうことは、とても理解できないのは当たり前です。

一方、意識を本物とする思いの世界に自分の軸足があれば、そのことは自分の中で感覚的にとらえることができます。

そうなつてくれば、今のこの自分の姿、形を含む周囲の形の世界についての自分の見方が変わってきます。人生観とか世界観が変わってくるはずです。価値基準も、判断基準も、もちろん違ってきます。

そして、生まれてきた意味、人生の目的、死ねばどうなるのかということについて、自分の心ではつきりと分かつてきます。

また、「心を見なさい」ということが、どんなにすごいメッセージなのか、「あなたは愛です」というメッセージがどんなにすごいのかも、しっかりと自分の中で確認できるでしょう。そうなつてくれば、それらを感じて知つていける絶好のチャンスに出会っている自分達は、本当に幸せ者だという以外にないと、あなたの心に響いてくるはずです。

どんなに優秀な頭脳を持つていようが、才色兼備であろうが、由緒正しき

家系であろうとも、財力、権力、知力が思いのままであっても、しょくばう将来を嘱望されいても、違う、全く違っていたんです。

生まれてきた意味も、人生の目的も、死んでどうなるのかも、全く知らずに生きて死んでいくことが、どんなに自分にとつて冷たく、やるせなく、愚かなことなのか、おの自ずと分かってくると思うんです。だから、色々な現象を通してしつかりと学んでいくようになつてきます。

自分の本当にるべきことがありました。それは老いも若きも男も女もな
く、万国共通のことでした。私達は死んで終わりではありません。死んでも生きています。死んで人生をリセットできません。リセットするためには、自分の心を見るしかありません。

何で生まれてきたのか。何をするために生まれてきたのか。

意識、エネルギーである私達人間が、なぜ肉体という形を持つてくるのか。

そもそも、意識、エネルギーが形を持つとはどういうことなのだろうか。

もちろん、頭を巡らしても答えは出ません。答えは、正しい瞑想を積み重ねて、それぞれの心から引き出していきます。自分の心から引き出していくことが、心で分かるということです。

そういうことをしていくことが、本当に自分の人生を生きるということではないでしょうか。

私は、自分が本当の意味で生きて、そして死んでいった人生を、ただの一度も送つてこなかつたことを知りました。さて、あなたはどうでしょうか。

私は、だから、学びの中で、今世こそという思いで生まれてきたことを感じて知つていきました。その思いに忠実に、私は今世の私も、そして、二五〇年後の来世の私も従つていくだけです。さて、あなたはどうでしょうか。

愛へ帰ろう、温もりへ帰ろう、喜びとともに。

私は、ようやく、自分で中でこのメッセージを聞くことができた今世でした。肉、形の中に真実はないということを、自分で中ではつきりと分かつていて、どれだけの時間を経てきたことか。

すべての苦しみの原因はそこにあつたと知つて、そして、自分で中が変わつていき、そこから見えてくるもの、感じてくるものによつて、また自分で中を感じていくことを繰り返す。

私はそれを自分と自分の対話と表現していますが、どんなこともすべて自分が中で行われているんだということが、学びに触れ、学んでいく中ではつきりとしていきました。

「自分は思いの世界に生きている。だから、死んでも死なないんだ。思いを消滅させることはできない。自分は思いとして永遠に存在する」ということでした。

だから、この思いの世界が変わつていかない限り、永遠に本当の自分が分

からないことになります。

そして、思いの世界が変わつていけば、「自分を苦しめているのは自分でした。喜びの自分を広げていくのも自分です。全部自分次第でした」と心で分かってきて、「ああ、思うことが嬉しい。思えることが嬉しい。思えることが幸せ。本当にこんな人生があつたんだ」となつていきます。

そんな愛に帰る我が道を、ただひたすらに真摯^{しんし}に淡々と、そして、喜んで歩いていく、それはすべての人達に用意されていることです。

学びに集つている、いない、そして、肉を持っている、いない、に関係はありません。本当に関係がないことが、瞑想をして心を向けていけば感じられます。

すべての存在に用意されているこの道。目には見えない、しかし、意識がキヤツチできる、愛に帰る道が、確かにあります。

意識と意識が響き合い、通じ合う喜びを感じていけば、心からどんどん噴

き上がつてくるのは、ただ喜びだけなんです。

そして、それだけに、ではこの目に見え耳に聞こえる空間は、本当にいつたい何だろうかと思ひます。

しかし、意識と意識が響き合い、通じ合う世界を心で感じることがなければ、目や耳を通して実感していける世界をやはり重視していくでしょう。

どれだけそれは影などと^{たた}呼び込まれても、現実、実感としてある肉、形の世界に軍配が上がるのではないでしようか。

肉を持ちながら、意識の世界だけが実在の世界なんだということを信じ切る難しさです。

しかし、私は、自分の心で感じてしまつたんだから、もう、そういうことは言えないです。どれだけ切望し、どれだけ待ち望んできた今であるか、自分の心で知つてしましました。

肉を持ち、この道を真っ直ぐに突き進んでいく厳しさ、難しさもさること

ながら、その喜びは例えようもないものです。

だから、心を向けていくだけです。思いを馳せていくだけです。正しく思う、それだけでした。

今一度、あなたのその肉体を動かしているものはいったい何なののかと思つてみてください。

あなたの頭ですか。頭脳が指令を発して、あなた自身は動いているのでしょうか。肉基準ではそうでしょう。世の中は、肉基準で動いていますから、それには何の異論もないと思います。

頭で色々と思考を巡らせて、そして、身体を動かしていく、行動を起こしていくということですが、では、その頭脳が指令を発する、その指令とはいったいどこからやつてくるのでしょうか。

私達は、意識が基準ですというメッセージを発信しています。

あなたのその肉体を動かしているあなたの中のエネルギー、すなわち、エネルギーとしてのあなた自身を、しっかりと知つてください。それが、あなたが肉体という形を持つて、今そこにあるということなんです。

あなた自身がエネルギーであるということを知つていくために、今、あなたは、一つの肉体を持つて生活をしています。それぞれの人生があるんです。そのことに、一日でも早く気付き、みんな人生の本当の目的に沿つて、本当の人生を歩いていきましょう。喜び、喜びの人生に巡り会つてください。

生まれてきたことに、産んでくれたことに、心の底からありがとうと、本当に心の底からありがとうと、自分に限りなく優しく言えるようになります。

本当に自分に優しく、ただただ優しくなつてください。自分の心の叫びをしつかりと聞いてあげられる自分にまずなつてください。

自分では一生懸命に生きたつもりでも、あつという間に時間が過ぎ去り、

訳が分からぬうちに死んでいく人がごまんといます。

今世、学びに集つてゐる人達も、何度も、何度も嫌というほど、そういう転生てんしょうを繰り返してきました。本当の自分を知らずに、偽物の自分に磨きをかけて、全く下らない時間を費やしてきたものです。

いいえ、それどころか多大なるヘドロ、悪臭を垂れ流し放置してきました。しかも、そのことを全く知らずに存在してきました。これほど無知なことはありません。あなたはどれだけ、自分は無知でしたと気付いておられるでしょうか。

あなたのその肉体は、今のあなただけのものではないことを感じてください。今のその肉体にすべてを託してきた自分の思いを感じてください。

そして、その肉体をただひたすら愛に帰る道にいざなうために活用してください。

肉体は大切です。大切なものです。ただし、その思いと、肉が自分だとす

る思いとは相容れないことをしっかりと知つて、自分が決めてきた愛に帰る道と出会つてください。

みんな、こうして生まれてきて今があるんです。産んでいただいたんです。この千載一遇のチャンスをしつかりと活^いかしてください。

日々、正しい瞑想を重ねていく中で、自分の心の中の喜びと温もりが信じられるように、そして、その世界が自分の本当の世界だつたと確信が持てるようになつてください。「私は愛そのものでした」と信を深めていつてください。ともに歩みを進めていきましょう。

本当はみんなそれぞれに、愛へ帰る道を行こうとしています。

スマーズに行つている人もあれば、そうでない人、そんな道があることさえまだ知らない人、気付いていない人、様々です。

様々ですが、中の意識達はみんな必死になつて愛へ帰る道を行こうとして

います。それはみんなに共通のことです。

みんなとは、学びに触れている、いないにかかわらず、また、肉を持っている、持っていないにかかわらずということです。

なぜならば、愛へ帰る道、愛に戻る道しかないからです。それ以外に何もないからです。

みんな愛。愛の中に存在していることに気が付けば、喜んで、喜んで、ただ本来の自分に、愛に目覚めていきます。そして、さらに目覚めさせていくように自分をいざなつていきます。

だから、すべてがよしなんです。すべてがプラスなんです。マイナスなんて存在しない。マイナスはプラスでした。

肉、形から見れば、そんなことは絶対に思えません。マイナスはマイナス。マイナスとプラスは違う。それが肉基準の見方、とらえ方でした。

それを徹底的に自分に伝えてくれるものが、これから起こつてくる天変地

異というエネルギーでしょう。天変地異はこれからです。一二五〇年に至る時間、激震の時間です。

どうぞ、その中で、肉基準と意識基準の違いをしつかりと確認して、次元移行という意識の流れに自分を乗せてください。

III

愛へ帰ろう。心のふるさと、愛へ

心のふること、愛へ帰ろう。

まだ、あなたの中に、この思いが響いてきていないかもしれません。

ただ、絶えず、どんな時もこの呼び掛けがなされているということは事実なんですね。

だから、これから、色々な現象を通して、このメッセージがたくさんの人
の心にストレートに響いてくる時がやってきます。

形の世界の総崩れと申しましようか、まさに、すべてが根底からひっくり
返るエネルギーが働いてまいります。ということは、人間の心の奥底に眠る
闇が噴き出してくるということです。

愛はパワーなんです。愛は本当のパワーなんです。

パワーは、すべてを喜びに帰していく仕事をしていきます。

何が喜びで、何が幸せかということが分からなくなり、見えなくなつてしま

まつた人間の心の深部まで、ズバッと轟いていくような仕事です。

「心のふるさと、愛へ帰ろう。」

力強い呼び掛けは、あなたのなかから発信されていきます。

あなたのなかから噴き出してくる闇は、みんな、みんな自分達のふるさと、愛へ帰りたいという、心からの呼びだからです。

その呼びを、本当に受け止めていけるような人間になつていきましょう。人間復活と申しましたが、それが愛へ帰る大きな第一歩となります。

長い、長い、気の遠くなるような長い時を経て、ようやく、その第一歩を自分の中に踏み出すチャンスが、今のこの時間とご理解ください。

真実に触れた意識達の働きは、これから地球上に様々な現象をもたらしていきます。

異常気象しかり、人間の異常な行動しかり、心の闇の噴き出しは、もはや留まることはありません。

出して、出して、噴き出して、総崩れの中で、私達は何を叫ぶのでしょうか。神を恐れながら、しかし、神に救いを求め、神のしもべとなつてひれ伏してきた人間は、神には何の力もなかつた、仏にも何の力もなかつたと、最後は神、仏、何とかのパワーなどを、みんな自分の心から放していくようになります。

しかし、そこに辿り着くまでは、それは、それは大変厳しい時間が用意されています。どこまでも、どこまでも闇黒の世界が、想像もできない闇黒の世界が広がっていくんです。

厳しい現象は、愛へ帰りたい、愛へ帰るんだ、愛へ帰ろう、の意識の目覚めを、どんどん起こしていきます。

闇をどんどん押し上げてくる喜びのエネルギーの噴出。

その喜びのエネルギーの存在に、心から気付いて、本当に心で知るまで、闇はどんどん、どんどん噴き出していくでしょう。

中途半端ではいけません。徹底的に、自分の地獄を見ていく、知つていく必要があるでしょう。

もう十分に地獄は見てきた、知つていると言われる方も、いるかもしれません。

それは確かにそうかもしません。しかし、これからは、これまでとは違うんです。これまで、醜悪な地獄絵図の中に自分を落として、落として、さらには落としていくだけでした。全く真っ暗闇の奥底に沈んだままの状態で、その中でのた打ち回つていただけでした。

しかし、これからは、私達人間は、そこから自らを浮上させていく大きな転機をそれぞれに迎えるのです。

それは、今という時間をして、意識の世界に大きな変化があつたからです。

意識の流れというものが厳然^{げんぜん}としてあり、それは肅々^{しうくしうく}として大きな仕事を

成しているとする目覚めがあつたからです。

この世の地獄、これほど醜惡な、愚かしいものはない、しんさん辛酸をなめ尽くしてきた体験、経験は、実は私達の心の奥底に眠っています。

だから、みんな自分の心を見ていくことが嫌なんです。

基本的には、人間は、自分の心を見るということを拒否していきます。

ただ、どんなに拒否しようとも、そして、認めたくない自分の闇の世界であつても、これから、それはしっかりと自分の眼前に展開していきます。

だから、見ざるを得ないんです。そして、認めざるを得ないんです。

「心を見なさい。見ていくんです。しっかりと心を見なさい。」

そんな呼び掛けが自らの中から発信されていきます。

すべての存在が愛だからです。愛でないものは何一つないということを、心で知つていくように、これから現象界は、さらに大きく動いていきます。人

間の心の奥底に眠る深淵しんえんな闇の世界。そこをみんなオープンにしていかなければなりません。洗いざらい出し尽くさなければなりません。

しかし、何も恐れることもなければ、憂うこと也没有。

愛という本当の温もり、本当の喜びで、その世界をしつかりと抱き抱え、包み込んでいくように意識の流れは動いてまいります。

愛というエネルギーは確かに存在します。そしてまた、本当は闇の世界など存在しませんでした。

みんな、みんな愛だつたと目覚めていくために、これから時間が用意されていることを知つていきましょう。

「はじめに」のところでありました、偉人、賢人、愛の人など、どうでもいいんです。

それよりも、地獄に落ちてきた自分に、本当に優しく、どれだけ本当のこ

とを伝えることができるか、心のふるさと、愛を伝えることができるか、そして、いかにして地獄にあつた自分が喜びの自分に蘇よみがえっていくことができるか、本当の自分を取り戻すことができるかということです。

私達人間はみんな、それを成し得れば、それでいいんです。

私達人間はみんな、そのために、肉体を母にもらつてきたんです。

何度も、何度も、自分の地獄と、地獄にいる自分と対面するために。

地獄、地獄と言つていますが、天国がないように、実は地獄などありません。
存在しません。

あるのは、自分を知らない、愛を知らない冷たさ、愚かさ、無知、そんな
自分の世界です。

それを地獄と言つています。

自分を知らないんです。自分がどんな存在であるか、全く知らずに、いいえ、
それどころか、私達人間は、自分を捨て去り、切り捨て、見捨てて、偽物の

自分を自分だと思い込んできたんです。これほど愚かなことはないではないですか。

しかし、これまで私達は、自分は立派だと、自分は正しいと、人間ほど素晴らしい存在はないと、豪語してきました。

そうしてきた結果、どうですか。

なぜ、いつまでも、いつまでも、戦争をしているんですか。人殺しをしているんですか。

愛する家族、友達を目の前で殺されて、互いに互いを傷つけ合って、なぜ自分達は正しいんですか。

正義を振りかざして人を殺していくんです。何が正義なのでしょうか。

人間は、神と呼びました。神の力を信じてきました。仏の加護があると信じてきました。

それでは、いったい神の力とは何でしようか。仏の加護とは何でしようか。

本当に神に力があるならば、本当に仏の加護があるならば、なぜいつまでも、戦火に逃げまどい、貧困に苦しむような生活を続けなければならないのでしょうか。

昨今の日本の国においても、異常な事件、事故が次から次へと起こっています。暗いニュースばかりです。そして、異常気象です。

色々な事が、まだまだ起こつてくるでしょう。天候は不順になり、生活環境は、益々劣化ますますしていくでしょう。

そして、人間の心は荒すさんでいく一方です。自分を捨て去つた心の中にある闇の部分が、これからさらあらに露わうみになつてきます。

膾しじは全部吐き出さなければなりません。人間の心に巢食う深淵しんえんな闇は、目を疑い、耳を疑いたくなるほどのものです。

形の世界の総崩れを、私達人間はみんな体験していかなければならぬようになつています。

自分に目覚めていくには、心のふるさと、愛へ目覚めていくには、それこそ、私達自身が作つてきたものを根底から覆すくつがえことが必要だからです。

形の世界の総崩れから、人間の心は何かを学び取つていきます。

「神はあるのか。仏は存在するのか。神、仏が本当にあるならば、なぜこんな阿鼻叫喚あびきょうかんの世界が現実、自分達の前に広がっていくのか。

もしかして、神にも、仏にも、どこそこのパワーにも、本当はこの窮状きゆうじょうを救う力はないのではないか。」

やがて、人間の心の中に、そのような思いが芽生えてきます。

それを、愛のエネルギーは見事に引き出してくれるんです。

「そうだ。そんなものに何のパワーもなかつた。」

その事実をしつかりと、はつきりと自分の目の前の体験より心で感じ取り、学び取つて、自分の中から、この答えを導き出していくことが、私達人間には絶対に必要です。一人ひとりが自分の中で気付いていくことが絶対に必要

なんです。

そうでないと、人間の欲の賜物たまものである神、仏、パワーの世界を心から解き放つことは到底不可能です。

どんなに時代が巡り、社会が変化しても、自分達の中に作ってきた神、仏、偽物のパワーの世界の言いなりになつて、ただただ闇のエネルギーを垂れ流して、自らを苦しみの奥底に沈めてしまつた状態に、何ら変わりはなかつたというのが、これまでの私達の転生てんしやうの数々でした。

間違つた輪廻りんねの中で、ずっと苦しんできたんです。自分を自分で苦しめてきたんです。誰が悪かつたのでも、何が悪かつたのでもなく、自分が無知だつたんです。自分自身が間違つた輪廻りんねを繰り返してきただけのことでした。

しかし、この地球上に、今何十億の人達が肉体を持つていてもかかわらず、この事実には、全くと言つていいくほど触ることはできていません。

それほど、人間の心は地に落ちてしまつた、自ら作つた闇黒の世界から抜け出せないでいるという現実を、まず知つてください。

自分の周りの現象から、自分の心が叫び出す思いを感じ取つていきましょう。

形の世界は一瞬にして崩れていくけれども、そして、それと同時に、形の世界の幸せ、喜びも一瞬にして消え失^うせてしまうけれども、決して消えないものがあるんです。

その決して消えない、色褪^{いろあ}せないものがいつたい何であるのかを、しっかりと見極めることなくして、明るい展望は開けてこないことだけは知つておいてください。

愛はすべての暗闇を一気に流していく力があります。真のパワーです。喜び、温もりこそが真のパワー。

これから、この地球上^{てんじょう}してくる人間達を待つているものは、過酷なま

での現象です。それでも、その現象は、愛に帰りたい、本当の自分に目覚めていきたい、目覚めていこうとする、心からの叫びが形となつたものなんだということに全く間違いはありません。

私達人間は、母のお腹を通つて生まれてきます。

体外受精だとか、試験管ベビーだとかの不妊治療の結果、肉体を持つてくる意識も確かに存在しますが、その意識達も、いつも、いつもそのようにして肉体を持つてくる訳ではありません。

そして、たとえ、体外受精であつても、母の子宮の中で、母の意識をしつかりと伝えてもらつて、今度こそ、今度こそ、愛に目覚めていくんですよ、この世に出していくだくという過程を経ていきます。

だから、肉体を持つということはすごいことなんです。そんなすごい体験を何度もさせていただいたにもかかわらずに、田池留吉という人が生まれて

くる今世まで、私達はみんな地獄の住人でした。

数え切れない間違った転生を繰り返して、心中には積りに積つたヘドロの如き闇。しかし、その自覚のないままに、長い、長い時間を経てきました。それが私達人間の実情です。

地獄の住人ということは、私達はみんな自分の中の愛を捨てた、つまり、自分自身を捨てたということです。

しかし、自分の中の愛を捨て去つても、母の意識は、私達に、愛に目覚めてくださいと、肉体をくれるのです。何度、裏切り続けようが、限りない優しさ、温もりで、私達を信じ待つてくれている、それが本当の母の想いでした。

その本当の母の想いに触れながらも、愛を捨てた私達は、なかなか、なかなか、その母の想いをストレートに受け止めることはできませんでした。聳え立つ己の意識は、繰り返し、繰り返し、母の意識を足蹴にしてきたのです。

これは、今のその肉体をくれた母に対して使ってきた心、出してきた想い

を見てみれば、
一目瞭然いちもくりょうぜんです。

母を見下し、母を恨んできた心、思いは、生まれてくるどの人の心の中に
もしつかりと残つていました。だから、生まれてくるんです。生まれてくる
ということはそういうことなんです。

それが、にわかには信じられないと思うのならば、偉人、賢人、愛の人と
いうことで、歴史上に名前を連ねた人達にも、自分を産んでくださった母親
に対して、どんな思いを出してきたか、どんなエネルギーをぶつけてきたか
ということを、語つていただきたいいいんです。

世間で一応の評価を受けている人達が、いつたいどんなことを語つてくる
かということです。

もつとも、この作業については、あなた自身が、その人達の意識、波動を
きちんと受信できるかどうかということはあります、私達人間を含むすべて
の存在の本質は、意識、波動、エネルギーなので、本来はどなたもみんな

意識と意識の交信ができるんです。

ただし、これは全部、自己責任だということをご了承ください。

自分の心の状態が不安定なのに、闇雲に意識の交信をしていては、互いに闇同士なので、闇のエネルギーをただ助長していくだけです。それでは、自分自身の末路が哀れな状態になりかねないので、その点は要注意です。

しかし、記したように、何度、裏切り続けようが、限りない優しさ、温もりで、私達を信じ待つてくれて いる本当の母の思いに触れ、その母の思いを心にしつかりと受け止めているならば大丈夫です。

どんどん、意識を向けて、そして自分の心で、現実を確認してください。

たとえば、あなたに、この人は偉い人なんだ、悟った人なんだ、あるいは立派な功績、業績を残して自分の人生の師として仰ぎ見ている人なんだ、自分もあるののような志を立てていきたい、と思う意中の人があるとしましょ

う。

では、あなたはどうして、その人をそういう羨望^{せんぼう}の目で仰ぎ見るようになつたのでしょうか。

その人と、あなたは直接に会つて話をしたというのでしょうか。

中には、もうすでに死んでしまつて、一〇〇年、二〇〇年、いいえ、一〇〇〇年以上の時を経ている人もいるでしょう。

もしかしたら、あなたは、その人を文献等で知つて、つまり、そこで得た知識と、世間の評価と照らし合わせて、あの人は立派な人だと、自分の中でイメージを膨らませて、仰ぎ見ているだけなのではないでしょうか。

そこで、そういう一連の知識とか評価というものを、少し横に置いておいて、ということは先入観を持たずに、あなたの心をもつと柔軟にしていくんです。

柔軟というのは、いい意味、正しい意味において、あなたの心をもつと敏感にということです。

心を敏感にして、その人、たとえば立派な人だと自分が思つてきた人に思いを向けてみるんです。

そうすれば、その人の人となりとか、略歴とか細かいことは分からずとも、その人が、今現在苦しんでいるか、そうでないかが分かります。

もつと言うならば、そこからくる波動です。エネルギーです。それを感じてみましょう。

それは暗いのか、明るいのか。温かいのか、冷たいのか。荒々しいのか、穏やかなのか。

実は、そういうものを識別できることが、とても重要なことなんです。

重要であるとともに、そういうものを判断の基準にするべきなんです。

そこで、これまでに何度も書いてきたことを思い出してください。

私達はこの肉、見える姿、形が私達ではないということ、私達の本当の姿は、意識、波動、エネルギーであるということを。

その人を本当に知るということは、その人の流している波動、エネルギーを知ることになります。

目で見て、耳で聞いて、集めた色々な情報を基にしたところの世間一般的人物評価と、その人に実際に思いを向けたときに、自分の心に伝わってくるその人の波動というものに、大抵はギャップ、大きな隔たり、違いがあります。これは、心が、いい意味、正しい意味で敏感であれば、本当はどなたにも分かることなんです。

そのあなた自身の心に伝わり響いてくる思いを、あなたの判断の基準にしてください。

そうしていけば、世間で一般に語られていることと現実は、本当に大違ひだということが、世の中にはざらにあるとおのづと分かつてきます。

それでもあなたは、世間一般的の評価を受け入れて、自分が偉いと思つてきた人を、これまでと同じように^{すうけい}崇敬していくのでしょうか。

それは、あなたの自由ですが、そうするということは、その人の意識とともに、あなたの意識の世界もござつて、地獄の奥底の底に真つ逆さまに落ちているということだと言つても、決して言い過ぎではありません。

だから、世間の評価はもういいんです。この世の中は濁流です。肉を本物とした中で、何をどのようにしようとも、眞実の世界は見えてこない、明るい展望は決して開いてこないことを、しっかりと心に叩き込んでいきましょう。

それよりも、自分の心をしつかりと見て、何を間違えてきたのか、なぜ間違つてきたのかを知つていく方向に、自分のエネルギーを使ってください。そうしながら、思いを向けるということ、思うということの大切さを知つていきましょう。

自分の心はみんな知っています。

ただし、「心」といつても、ここで言う「心」とは、今、あなたが考えているようなちつぽけなものではありません。

私達人間の本質は意識、波動、エネルギーなんです。その世界は、無限に広がっていく世界なんです。

それを基準に、「心」というものを考えてください。当然、そこで言う「心」というものは、普段、私達が心の中とか、胸の内とかということで、イメージしている「心」というものとは、格段の違いがあることになつてくるでしょう。

今、一つの例えとして、自分が尊敬する人、人間ですね、そういう人達に意識を向けていけばどうですかと書きましたが、たとえば、人間以外、犬とか猫とか鳩とか、木々、植物などにも意識を向けてみてください。

それらは語ってきます。波動を伝えてきます。

そして、それらの波動と人間の流す波動の違いはどうなつか、自分の心で感じてみてください。

たとえば、こんなのはどうでしょうか。

瞑想をしているとき、ふと海底火山という言葉が浮かんできたので、そちらのほうに意識を向けてみました。



私達の思いを感じてください。私達の出番を、今か今かと待っています。喜びで、喜びで私達は自分達のエネルギーを噴き上げていきます。

私達のエネルギーは愛のエネルギーです。この地球上に肉を持った意識達、肉を持たない意識達、すべてに次元移行を伝えていきます。そのエネルギーを私達とともに感じていてほしい、感じていていただきたいと思います。いたずらに恐怖して、自分を落とし込めることがないようにしてください。私達は愛に帰る喜びの道筋をしつかりと歩いてまいりましょう。

心中を見つめてください。私達は海底火山。あなた方と無縁のものではありません。

かつて私達とともにこの海の底に沈んだ意識達、たくさん、たくさんござ

います。そして、その意識達が再び肉を持つ、このように学びに集つている現実もお伝えしたいと思います。

私達、海底火山の思いをお伝えします。ともに、ともに愛に帰る道をただひたすら歩いてまいりましょう。間違つてきた道を歩き続けてきた意識達の目覚めを促していきたい、促していこうとしています。

意識は確実に流れています。愛のエネルギーは確実に流れています。
としてあります。この大きな広がりのもとで、ただただ一つ。

愛に目覚める道を、ただただひたすらに歩いていきましょう。



また、社会現象の一つであるエボラウイルスに思いを向けてみました。



私達、エボラウイルスの思いを聞いてください。

私達が、あなた方を苦しみの奥底に陥れるはずがございません。

私達の本質は愛なんです。人間達の心の中には、私達の思いが届かないようになつてしましました。私達は恐れる存在ではございません。確かに私達は人間の命を奪つてしまつでしよう。そんな威力があるかもしれません。

しかし、私達は警告を発しているのです。苦しい、苦しい心の中を見てくださいと。

エボラウイルスに思いを向けたときに、私達の思いを心から受け止めてくださる人が、いつたいどれほどいるのでしょうか。

私達は、ただただ憎まれものです。厄介者 やっかいものです。私達を消し去ることしか考えていません。なぜ私達が存在しているのでしょうか。

私達は愛なんです。人間の心の中に届いてほしい。この波動を届けたい。エボラウイルスは、私達の思いを聞いてくださいという思いの表れなんです。そうなんです。私達の思いを聞いてください。私達はエボラウイルスという形となつて、ただただ思いを伝えたかつたんです。思いを感じていただきたかつ

た。苦しい、苦しい心の中を見てほしかつた。ただただそれだけです。命を容赦なく奪っていくような存在、恐れられている存在ではあります、私達の思いは全く違っています。

私達は愛でした。そのメッセージを伝えんがために、エボラウイルスという形になつて、私達は警告を発しているんです。

心から、心からこの思いを受け取つてください。ああ、受け取つてください。エボラウイルスを恐れることなく、ただただ心を向けていただきたい。

優しい母のほうに心を向けていただきたい。苦しい中にあるのではなく、あなた方は愛なんですよ、ただ私達はそのようにお伝えします。



このように、海底火山と思えば、海底火山が語つてきます。エボラウイルスと思えば、エボラウイルスが語つてきます。

そして、それらは、私達人間に必要なメッセージを伝えてくれているんで

す。だから、決して興味本位で、あるいは恐怖心で思いを向けるのではなくて、意識の世界の真実を学んでいくために、その時、その時の色々な社会現象に思いを向けていくことは必要だと思っています。そうです。思いを向けるんです。一瞬思つてみるんです。

そうしたとき、目で見て、耳で聞いて集めた情報、それを分析したものと、色々な社会現象にストレートに思いを向けて自分の心に響き伝わつてくるものとは、全く相容れないことが分かつてくると思います。

特に、これから私達にとって、天変地異というものが大きく関わつてきます。天変地異、それは、自然現象だけではなく、それを含む自分の内外を大きく揺らす現象と思つていただきたいと思います。

そういう、いわゆる天変地異という現象は、果たしてどんな波動を伝えてくるのでしょうか。

その波動を正しく受信できれば、いいえ、受信できるように、そして、そ

彼らの現象によつて、自分の意識の世界は転機を迎えることができるんだ、それらは自分を大きく変えていけるチャンスなんだと信じていければと思ひます。ただ恐怖の思いにおののくだけでは……と思ひます。

私は、意識の流れに思いを馳せるとき、キーワードとして、「次元移行」という四文字と「天変地異」という四文字が浮かんできます。そして、それに関連して、「日本沈没」という四文字が浮かんできます。

もちろん、天変地異は、世界各地でこれからも起こつてきます。地球は生きているんです。地殻変動、海水温上昇等々で、陸地が沈み、また新たな陸地が現れていきます。その中の一つの現象が日本列島沈没という現象です。

地球も意識ですから、これからこの星はどういう状態になつていくかを語ります。そして、そのことを通して、愛に帰ろうというメッセージを伝えてくれるんです。それは、形の上からは無残としか言いようがありませんが、すべては愛の中の出来事であり、決して、恐怖の塙堀^{さるづば}に私達を陥れる出来事

ではありません。

今、例として挙げた海底火山とか、エボラウイルス、また地球にしても、そこから感じられる波動が優しいんです。

はつきりと真実を伝えてきますが、根底にあるものは、喜びと温もりです。愛に目覚めよという毅然きぜんとした思いがしつかりと感じられます。

地球上の小さな島国、日本に、田池留吉という意識が肉を持つて、本当のこと伝えに来てくれて、そして、私達もまた肉を持つて学ばせていただいたことから、この日本列島に思いを向け、喜びで沈んでいく日本列島の思いを受けていきましょう。

その前兆現象は、もちろん、すでにあります。

とりあえず、あなたが今、生活をしている場の意識を受けてみてください。そうしたとき、あなたの心の中にどんな思いが出てくるか、天変地異のエネルギーをもつと身近に感じ、意識の流れにしつかりと思いを馳はせてください。

先ほど、肉体を持つということはすごいことなんだと書きました。

自分が何を間違い、なぜ間違ってきたのかということを知つていくために
は、私達には、肉体という形がどうしても必要でした。

見て、聞いて、日々、様々な情報に接することによつて、心は揺れ動いて
います。揺れ動く、心があると知ることがいいんです。

もちろん、その揺れは大きいときも小さいときもあります。穏やかな心地
良い揺れを感じるときも、ドーンとその落差が大きいときも、それぞれの生
活の中であるでしよう。

とにかく、心は絶えず動いているんです。つまり、私達は、絶えず思いを
発している、エネルギーを流していることを自覚できればと思います。

そして、発する思い、流すエネルギーを確認していく習慣をつけてください。
そうすれば、色々なことが自分の中で分かつてきます。

目に見えること、耳に聞こえることによつて動く自分の心。

苦しくとも、辛くとも、しつかりと見ることを励行していきましょう。

恨みや呪いや怒りの心、不平、不満、愚痴る心、見下し、羨望せんぼう、諦め、牛耳ぎゅうじる心、まだまだたくさんあるでしょう。

実は、それらのいわゆる闇、ブラックの思いは、次から次へと出してくれるのを待っています。それらは全部自分自身です。自分が肉だと思つて転生てんしようを重ねてきた結果のたくさんの自分です。

今、肉体を持つて、自分の中でそういうたくさんの自分を知つていけることは、本当に喜びなんです。

実は、それらの思いは、みんな、愛に帰つていくことを待つてゐるんです。だから、そう伝えてあげたら、みんな、ありがとう、ありがとう、あなたの心中へ返してくれます。

どんなに自分達のふるさと、愛へ、温もりと喜びの世界に帰りたかつたか、

あなたの今の肉体を通して、あなたがあなたに語つてくるんです。

それをきちんと受け止めていけるように、いい意味、正しい意味で敏感なあなたになつていきましょう。優しいあなたになつていきましょう。

今、持っている一つの肉体を指して自分だとするとところから、自分自身を解き放してください。狭い小さな中に自分を閉じ込めないで、もつと、もつと開いていくあなたの心、あなたの意識の世界、あなた自身を知つてください。

瞑想をして、自分の存在理由が分かればいいではないですか。

瞑想をして、自分がなぜ生まれてきたのか、産んでいただいたのか、心に響いてくれば、こんな幸せな喜ばしいことはないでしょう。

肉、肉で形の世界を本物として活動している人達は、しつかりと生きているようで、本当はみんな彷徨^{さまよ}っています。

そして、彷徨^{さまよ}いながら、苦しみ続けながら、自分が彷徨^{さまよ}っていることも、

苦しみ続いていることも分かりません。知りません。全く無知な状態です。それは自分が死ねば分かるのですが、元気で活動している間は、自分の死は考えにくいものです。

天国、地獄があると聞いているから、死ねば天国に行くのか、地獄へ行くのかと、その程度で、本当に死んだ先はみんな靄もやがかかるかかっている状態です。だから、今を刹那せつな的てきに生きているという人が殆ほとんどではないでしょうか。

「苦しくて、辛つらくて、悲しくて、やるせないことが人生には往々にしてあるんだ。だからこそ、そういうことが自分の周りに起こらないように祈るし、願う」「幸せになりたいんだ」「人と人との絆を大切にして、今ある命を大切にしなければならない」等々。

小さく、小さく生きている人が殆ほとんどではないでしょうか。

その濁流の中に今いることをしっかりと確認しながら、あなたは愛を思う瞑想をしつかりと励行です。

「私は愛です」と中から響いてくる時間と空間を、しっかりと持てるようになつてください。

「すべては愛。愛しか存在しない」と響き伝わつてくる波動を、心で感じられるようになつていきましょう。

限りなく広がっていく中に、無数の自分が存在していて、その無数の自分とともに、ただひたすらに愛へ帰つていこうとする道を見つけるために、私達は過去何度も生まれてきたんです。数知れず母に産んでいただきました。

「愛に帰りたい」とする自分の思いに、そして、「愛に帰つてきてください」とする母の思いに、もう皆さん、しっかりと応えていきましょう。

自分の本質、愛のエネルギーを愚弄^{ぐろう}してきた自分が、その自分の本質の愛に目覚め、喜び、温もり^{あふ}溢れる自分に帰つていくためには、どんなに凄まじいエネルギーを垂れ流し続けてきたかを、本当に心の底から知ること

が第一でした。

愛を知らない、捨てた私達、本当の喜びと温もりを捨てて、地の底に落ちた私達だつたけれど、自分の作つてきた闇黒の世界が本当の自分に帰ろうと、必死になつてもがき苦しんで叫ぶ思いを拾い、抱き抱え、包んでいけば、それらの闇黒の世界が放つ喜びと温もりから、本当の喜びと温もりを知つていくんだ、その喜びと温もりが、どんどん本当の自分を蘇らせていくんだということでした。

地の底に落ちてしまつた私達は、そういう方法でしか、自分の本質に辿り着けないんです。だから、心を見て、自分の出すエネルギーを感じていくことが、どんなに自分にとってすごいことなのか、まさにそれこそが究極の愛だと感じます。

どうぞ、正しい瞑想を重ね、自分の中の喜びと温もりを心から味わい、「私は愛です」という思いを深めてください。

自分の中から湧いて出てくる喜びと温もり、優しさ信じて、信じて、それだけを信じていきましょう。

私達は、真実の波動の世界を学ぶ機会を得ています。

波動の世界は言葉で表現できません。言葉で正しく伝えることはできません。だから、波動を正しく受信できるように、日々、正しい瞑想を重ねてください。

瞑想は喜びです。正しい瞑想を重ね、本当の喜び、本当の幸せ、本当の温もりを心に感じ、深めていきましょう。

本当に、瞑想で始まつて瞑想で終わると言つてもいいほど、瞑想、瞑想、瞑想だけです。正しい瞑想だけです。正しい瞑想ができるよう自分を仕向けていくことが、今、肉を持つているあなたの仕事です。

それ以外は、適当に、程々に、生活を楽しく営んでいけばいいだけです。

力を入れて、エネルギーを注いで、肉体細胞を痛め付けてまで、肉の仕事をする必要はないんです。本当に心の向け先が合つてくれば、悪戦苦闘をしなくても、自分の生活は整ってきます。

巷ちまたでは、困った時の神頼み、溺れる者は藁わらにも縋すがるといったことが堂々とまかり通っています。殆ほとんどの方は、いつまでも、どこまでも、外に、外に求めていくだけです。

その一方で、自分の中へ思いを向けていくことを学んだことは、それは、それはすごいことだと思います。自分というもの、自分という存在を、正しく認識していくための今なんだと分かれば、こんな幸せはなかつたと痛感するでしょう。

日々、刻々と世界のあちらこちらで、様々な事態が起こっています。そこに渦巻く愛と相反するエネルギーが仕事をしています。しかし、その源は、まさに愛のエネルギーなんです。

私達みんながみんな、愛へ帰ろうという流れの中にあることを知つていくには、まだまだ、まだまだ、時間がかかるでしょうが、確実に、愛のエネルギーは仕事をしていることを、日々、起こつてくる様々な事件、事故、出来事を通して伝えてきますから、自分の中へ、中へ思いを向ける瞑想の時間を大切にしてください。

誰しも耳に心地良い言葉を聞きたいし、優しい態度で接してもらいたいでしょう。あえて、厳しいことを言われたり、冷たい態度を受けたりすることを望む方はいないと思います。

耳に心地良い言葉、優しい態度は、確かに励まされ、癒され^{いや}、元気づかれしていくかもしれません。しかし、それは一時的なこと、そして、案外そういうことは、自分の心を見るチャンスを摘み取ってしまうことになるかもしません。

だから、肉的なことで一喜一憂しないで、いつも自分の中に心の針を向ける習慣を身につけることに専念しましよう。それは、自分と自分の対話です。そこから引き出されたものを、さらに自分の糧にして、自分の歩みを進めていくようにしてください。

自分と自分の対話ということですが、たとえば、こういったことです。

「本当の自分とは何ですか。本当の自分はどこにありますか。本当の自分を知っていますか。存在を確認していますか。信じていますか。その度合いはどの程度ですか。自分これからが見えていますか。」

「自分の展望は明るいですか、暗いですか。肉体を持つている間、何をしていきますか。」

「今、心に引っかかることがありますか。棘^{とげ}のようにチクチク痛みますか。心を残すようなことですか。」

「今、一番関心があることは何ですか。何か望むことはありますか。」

「今、幸せですか。生きてきてよかつたと思えますか。生きていくのは大変だと思いますか。」

まだまだ色々な問いかけがあると思います。どんどん自分に問い合わせて、そして、返ってくるものから、また自分の歩みを進めてください。

自分と自分の中の対話。自分と自分のお勉強。自己確立です。

自分の心を見て、自分の出すエネルギーを知つて、間違つてきた自分のエネルギーの質を変えていくように、変えていくように仕向けているのは、自分の中の愛。その愛に目覚める。目覚めれば、思うだけでそのエネルギーは仕事をしていく。そうして数限りない意識達とともに、次元を超えていく計画をしつかりと遂行していく。そのルートが自分の中ではつきりと確立していることを自己確立と言います。

その自己確立の中でこそ、本来の自分の姿が、現状がはつきりとしてくると思います。そして、そこからまた一步、自分の歩みを進めていけばいいとなつ

てくるでしょう。

そんな時間と空間がそれぞれに用意されているのだから、それがどんな状態を呈したとしても、それは、みんなプラスなんです。形の上からはマイナスであつても、やがてそれは必ずプラスに変わつていきます。もともと、プラスの要因しかないですから。マイナスは必ずプラスに変わつていきます。私達の本質は愛、すべては愛の中にあるからです。

それに目覚めるように、目覚めるように、肉体というものを正しく活用して、そこから得る情報によつて、しっかりと自分の心を見ていくようになさつてください。喜びで心を見ていきましょう。

日々、淡々と一定のリズムの中で暮らす。そして、その中で、自分と自分の中の対話を楽しみ、自分が今、ここにこうして肉を持つてゐる現実を、ただ素直に喜び、それを自分の糧として、これから自分の時間に思いを

馳^はせていく、そういう道筋、確かな自分の道筋を自分で確認できる、これほど幸せなことはないでしょう。

意識の世界には形はないんです。目に見えません。そして無限です。それが私達の本当の姿です。目には見えない世界のことだから、自分の心で感じて、感じたものを信じていく以外にないのでしょうか。

そして、確かに、聞いて分かる、納得するという内容の話でもないけれど、どうすれば、どうしていけば、そして、どうなることが、本当に自分が望んでいることなのかは、みんな自分が一番よく知っているはずです。

自分の動く心を見て、自分が瞬時に流すエネルギーを感じて、そこから自分の中が何を求めているのか、徹底的に自分から答えを引き出していくことしかないです。

どんな思いで、今世生まれてきたのか、来世生まれてくるのか、瞑想の中で何度も、何度も確認してください。そして、その思いが自分を導いている

んだと知つてください。そんな自分に忠実に存在してください。

肉を生かすための人生ではありません。本当の喜びはどこにあるのか、本当の幸せは何なのか、過去死んだ自分から、そして、来世生まれてくる自分から学んでいきましょう。

「間違った輪廻から抜け出して、必ず、必ず、本当の喜びと温もりの中に戻つていく道を歩いてまいりましょう。」

本当の自分からのメッセージです。これは本当の自分と交わした固い約束です。どうぞ、あなたの心で受けてみてください。受けていけるあなたに蘇つてください。

正しい瞑想の正しいとは、心の針の向け先を言います。

ここまで、意識の流れというものがあつて、それは、すべての存在に、心のふるさと、愛へ帰ろうという呼び掛けを発信しているということ、それを心

で知つていくには、自分達の意識の変革が必要だということ、そして、それを促していくために、正しい瞑想をしてくださいということを記してきました。

正しい瞑想とは、言うまでもなく、あなたの内なる田池留吉に心の針を向けて、合わせて、思うということです。次章のタイトル通り、すべては正しい瞑想ができるか否かにかかりっています。

一〇〇点満点の瞑想ができなくても、ほんの少しでも、ほんの微々たる程度でも、内なる田池留吉に心の針が合つてくれば、それは本当にすごいことだと納得するでしょう。

ただし、いくら正しい瞑想をしようと思つてみても、それを阻止しようとするたくさんのブラックのエネルギーを抱えて生まれてきたのが私達ですから、そう簡単にはできないのが現実です。

それでも、それでも、していかなければならぬんです。だから、する方向には是非でもいつてください。

そして、正しい瞑想、田池留吉を思つて瞑想をしていけば、あなたの心から、お母さん、アルバートと必ず出てくることを確認してください。

あなたの心は、必ず、必ず、アルバートと呼んでいきます。そして、宇宙を呼んでいきます。そして、この宇宙を思う、思えることが、たまらなく嬉しい、懐かしいとなつてきます。

今、突然ですが、アルバートという言葉を出してみました。

宇宙という言葉は、第Ⅱ章より頻繁に出てきますが、アルバートという言葉は、この箇所が初めてです。

そこで、アルバートとはいつたい何だろうかとか、また、宇宙とは、世間で言つているあの宇宙とはどうも違うようだが、今ひとつよく分からないとか、思われている方もあるでしょうから、「アルバート」と「宇宙」について、少々説明をさせてください。

① アルバート

アルバートは、田池留吉と同様に人名ですが、それらは、ただ単に人の名前というのではなくて、真実の波動の世界の総称だと思つてください。

そもそも、真実の波動を伝えるために、その意識の世界が肉という形を持つたのは、今世が最初でした。田池という家に生まれたその子は、留吉と命名されたので、真実の世界＝田池留吉となりました。

そして、その真実の波動の世界が今度、肉という形を持つのが一五〇年後という計画です。その時の名前がアルバートです。

そういう意味で、田池留吉も、アルバートも人名には違ひありませんが、それよりも、その名称は、真実の波動の世界を指している、田池留吉、アルバートと言えば、意識、波動、エネルギーなどとご理解ください。

そうすると、田池留吉の肉がある今世の時間は、どんなにすごい時間なの

かということになりはしませんか。

今世から、二五〇年後にアルバートという波動が肉を持つまでの間、皆さん
がこの地球上に転生てんしゅうをしてきても、真実をお伝えする人は誰も現れないとい
うことです。

その間、皆さんに何度転生てんしゅうがあるのでしようか。その転生てんしゅうのたびに、また
心を落としていくのでしょうか。そういうことも、本当に真剣に思つてみて
ください。

② 宇宙

もちろん、世間一般に言われているあの宇宙ではありません。宇宙もまた、
意識、波動、エネルギーです。

従つて、宇宙は、私達の外にあるのではなくて、私達の中にあるんです。言つ
てみれば、私達は宇宙そのものなんです。

ただし、私達は本当の自分である愛から遠くに存在し続けてきたので、私達の中の宇宙は闇黒の宇宙となってしまいました。自分達の中に闇黒の宇宙を作り続けてきたんです。

田池留吉もアルバートも私達の中にある世界、宇宙です。それは、たつた一つの真実の世界。もともとあつた宇宙です。

そして、闇黒の宇宙も私達の中にある世界。ただし、それは自分が心を見て、どんどん正しい方向に心を向けるように努めていかなければ、どこまでも闇黒の宇宙のまま。田池留吉、アルバートの宇宙とは決して相和することはできません。

つまり、闇黒の宇宙を心に抱えたままでは、次元移行という意識の流れには乗れないということなんです。

従つて、私達の中にある宇宙という波動、エネルギーが、どんどん田池留吉、アルバートの波動、エネルギーの中に溶け込んでいくことが必要となつてき

ます。それには、正しい瞑想が何よりも、何よりも必要なものなんだということです。

さて、アルバートと宇宙についての説明より、正しい瞑想がいかに大切であるか、ご理解いただけましたでしょうか。

正しい瞑想ができるようになつて、どんどん田池留吉の波動、アルバートの波動、それは、自分達の心の中にもともとあつた宇宙なんですが、その宇宙の波動を感じていただきたいと思います。

田池留吉の波動、アルバートの波動ということですが、それらは、決してバラバラのものではありません。すべては愛でした、愛の中で一つ、ということを伝えてきます。

その波動は喜びです。温もりです。温かいんです。優しいんです。広いんです。そこを本当に心で感じ知つていけば、「宇宙は、私達の帰るたつた一つのふる

さとでした」ということが、自分の心で分かつてきます。

そして、それが「愛」ということでした。

私達が帰るたつた一つのふるさと、私達はそれを「母なる宇宙」と呼んでいます。その母なる宇宙へ帰る、つまり、愛へ帰る旅路の途上にある自分達だつたことを心で感じてくれば、もう誰が何と言おうが、ただただ、ひたすらに田池留吉を思つていこうとします。それがたつた一つの喜び、幸せだということが、はつきりと心で分かるからです。

このことは、あなたの頭では決して分からぬことですが、正しい瞑想をするように、するように、自分を仕向けていけば、あなたの中から、アルバート、そして宇宙、愛、お母さんと呼ぶ、いいえ叫ぶ、何とも言えない嬉しい思いが、異語とともに飛び出でます。ここを体感すれば、「瞑想は喜び、本当に喜び」となつてきます。

異語とともにとあります。異語とは、日本語、英語、中国語とかいうも

のではありません。異語には主語もなければ述語もありません。

デタラメを言つてはいるように聞こえますが、それは私達の中の宇宙という意識が、自分達の思いを伝えてはいるんです。それを波動としてキャッチできれば、それぞれの心にストレートに響いてきます。

あなたも異語で、どんどんと自分の思いを語つてみてください。語つていけば分かります。実践を通して、心で感じてみてください。

もちろん、私の中では、すでに、田池留吉と言えばアルバート、アルバートと言えば田池留吉、田池留吉の宇宙はアルバートの宇宙、アルバートの宇宙は田池留吉の宇宙となっています。

田池留吉の意識は、その肉を持って、アルバートの波動を伝えに来てくれたんです。このアルバートの波動を、全宇宙が待つてることを、私の意識の世界は知っています。だから、内なる田池留吉に心の針を向けて合わせて

いけば、必ずアルバートと呼ぶたくさんの宇宙達を感じます。

意識の流れはアルバートとともにです。田池留吉の意識は、アルバートの意識。田池留吉を思うことは、アルバートを思うこと。私は、そのように自分がの中すでに結論付けています。

私の中では、田池留吉とアルバートを切り離すことはできません。田池留吉に心の針を向けて合わせるということは、アルバートを思うことなんです。

アルバートと呼ぶことが嬉しくて、田池留吉の異語はアルバートの波動を伝えてくれていて、そして、母なる宇宙を伝えてくれていて、だから、ただただ、田池留吉を思い、アルバートを思うことが喜びとなっています。

そういう状態の中で、宇宙を思い瞑想すれば、私の中の宇宙は限りなく広がっていくことを感じます。それを表現すれば、次のような感じです。私の中の宇宙達が語つてくるんです。



「田池留吉、アルバート、私達はともに次元を超えていく意識でした。私達は田池留吉、アルバートのもとに一つの意識でした。」

私は宇宙に心を向けると、心の中の宇宙達がそのように語つてくるのを感じます。ともに、ともに歩いていく存在。ああ、ああ、私の仲間。喜び、喜び、喜びです。

「ともに連れだつて、心の中を、ああ、私達は見ていきます」と伝わってきます。

私は、今肉を持つています。この肉を持ちながら、宇宙を呼んでいます。広く、広く、どこまでも広がっていく私の中の宇宙。宇宙を呼ぶことが私の切なる思いでした。宇宙に心を向け、ともに帰ろうと、母の温もりへ帰ろうと呼び掛けていくことが喜びでした。

「心の中の田池留吉、アルバート。優しい母の温もりの中へ私達は帰ります。愛へ帰る道をどんどん歩いていくこと、どんどん突き進んでいくこと、ともに、ともに歩いていける喜びだけを心に感じ、私達は、存在していきます。」

このことを固く約束してきたことを、私は、今世、思い出しました。

ともに、ともに語り合える仲間を心に呼び寄せ、私は必ず帰つていきますと、この三次元で転生てんしやうを繰り返し、私は、そのように自分に約束してきたことを思い出したんです。

田池留吉、アルバートの意識の世界に私達は本当に一つ。温もりの中へ、喜びの中へ帰る意識だと、私の中に愛溢あふれるエネルギーが、本当にあつたことを今、心から伝えられる喜びだけが響いてきます。

私は、本当にこの世界を感じ幸せです。田池留吉、アルバートの世界は私の中にありました。ああ、ありました。私達は喜び、喜び。

喜びで、喜びで存在していくエネルギーとして、心の中をどんどん広げてまいります。



今、宇宙を思う瞑想の一例を挙げさせていただきましたが、これは決して

特別なことではなく、もうすでにどなたの心の中にも響いてきているはずなんです。意識の世界は一つなのだから。

約束を思い出したと語りました。あなたは今現在どうでしようか。自分との固い約束を思い出しましたか。その自分の思いに触れれば、おそらく、きっとあなたも自分の中の宇宙達に、どんどん呼び掛けしていくでしょう。「愛へ帰ろう。私達のふるさと、愛へ」と。

意識の世界は一つだと記しました。

過去の死んだ自分から、そして、来世生まれてくる自分から学んでくださいとも言わせていただきました。

意識の世界は、形の世界のように、過去、現在、未来が順番にあるのではなくて、現在、今があるだけなんです。今という一点の中に、過去も未来もあります。

だから、今、あなたが心をどんどん見て、心をどんどん田池留吉の意識の世界に喜びで向けていけば、あなたの過去も未来も変わっていきます。

そして、過去のあなたが、未来のあなたが、今のあなたに伝えてきます。そんな過去のあなたと、未来のあなたとともににある喜びの中で、今という一点に私達は一つということを、ぜひ、瞑想を通して実感していただきたいと思います。

この章の締めくくりとして、二つの文章を掲載します。

今の私と、過去の私、そして、来世の私が一つになつて、ともに「愛へ帰ろう。心のふるさと、愛へ」の思いを確認し合つていると思います。

今の私が語つているのかと思えば、それは過去の私だつたり、来世の私の思ひなのかと思えば、それは今の私の思いだつたりしていると感じていただければ幸いです。



お正月に神社に行つた。お墓参りをした。仏壇に手を合わせた。宗教団体の教祖を心に入れた。南無阿弥陀仏と唱えた。そして、アマテラスに仕えてきた自分。伊勢神宮には結婚の報告を。そして、奈良の大神神社には、年に何度も訪れた。

たくさん、たくさん間違いを繰り返してきた。だけど、今の私の心の中にあるのは、ありがとう、ありがとう、ありがとうございます、私のふるさと、母なる宇宙へ帰ります、この思いだけです。

だから、私は、今こうして、肉体を持つています。田池留吉の意識と出会わせていただきました。学んでまいりました。

千載一遇のチャンスだと、千載一隅の出会いだと心で知りました。田池留吉の意識、アルバートの世界、その宇宙、母なる宇宙の波動、心で感じさせていただきました。

どんどん心を向けていく喜びを感じています。私の中で、田池留吉、アルバー

トの世界は広がつてまいります。限りなく広がつていく意識の中で、とともに歩めることを喜んでいる私があります。

間違い続けてきました。祈り、願い、宇宙を支配し、自分の保身のために、我が一族の保身のために、虫けらの如く殺傷してまいりました。

政治を動かす影の力となり、神の言葉を発してまいりました。すべてがブラックの世界。心を闇に売り渡し、私は、地獄の奥底の底の、底の、奥底に真っ逆さまに落ちていくだけの転生てんしょうでした。

しかし、私は、懲りずに、何度も、何度も同じ間違いを繰り返し、こうして、今、一つの肉体を持たせていただいています。

今世、私は、自分のすべてを懸けてきました。心を田池留吉、アルバート、お母さん、温もりに、しつかりと向けることを拒否してきた私にとって、それを遂行していくことは、とても、とても困難なことでした。しかし、「今世、私は、自分のすべてを懸けてきた」という自分の内なる思いが、それを可能

にしたんです。

「今世を外せない。」

今世は、私にとつて、たつた一つの、そして最後のチャンスでした。

今世、私はここを外せば、もう、再び、自分の本質に出会う、愛へ帰る道へ自分をいざなうことは、ほどん殆ど難しい状況でした。その背景を全部抱えて、私は、今世の肉体をいただきました。だからこそ、田池留吉の学びに食らいついてまいりました。

今世は、そういう状況から、二十年という時間を必要としましたが、ようやく、私の中にも、「自分が愛でした。私はこの道を真っ直ぐに歩いてまいります」と確信が芽生え、その芽生えが育ち、今、自己確立の道を喜び、喜びで歩いていく状況にあります。

私は、心から田池留吉を信じています。アルバートにどれだけ出会いたかったか。アルバートの波動をどれだけ心の中に広げたかったか。その思いは、私

自身、一番よく知っています。

だから、田池留吉がアルバートの波動を伝えにきてくれたということを、私はどれだけ喜びで受けていったか。アルバートを待っていた私にとって、田池留吉を信じていいのかないか、そういう思いを向けられること 자체が、愚かなことだと、私は、言い切れます。

私は田池留吉とともに歩いてまいります。田池留吉の世界は、私の世界です。アルバートの世界は、私の中にはあります。アルバートの中にあつた私。その私をどんどん知っていくことが、喜びへ帰る道。愛へ帰る道。

母なる宇宙への思いをしつかりと心に受け止め、私は一步、一歩着実に歩みを進めています。だから、私は田池留吉、アルバートと思う瞑想をします。宇宙と思う瞑想をします。

瞑想は喜びです。ただただ喜びです。



二五〇年後の私が語ります。

私は今、まだ肉体を持つていなければ、二五〇年後の私です。

私は、今、心中にアルバートを呼んでいます。私達の心中にあつたふるさとへ帰ろうと、私はこの喜びをずっと、ずっと待ち続けてきました。二五〇年前、私は一つの肉体を持ち、ようやく、この喜びの道を自分の中に見出し、そして、今に至っています。

私の境遇はとても苦しかったです。しかし、それもみんな、みんなこの喜び、温もりの世界を心に広げるためでした。

私は、今とても幸せです。ああ、この肉体をいたいたことを、本当に喜んでいる私があります。

ああ、この肉体は、すべて愛に帰るために用意されていました。

心を繋いで、繫いで、繫いで、二五〇年前の私から、今の私へ、ようやく、ようやく、しつかりとした足取りで、宇宙達とともに次元を超えていく道が

目の前に広がっています。私達の心の中の喜びは、爆発しそうです。

ありがとうございます。こんなに幸せでよかつたのでしょうか。

私の過去すべてが一斉に喜びに目覚めて、今、私はその思いを心いっぱいに広げています。

たくさんのがとう、喜びを胸に、私達は次元を超え、再び、この地球上には転生てんじょうしてきません。ともに、約束してきた私の仲間達。その喜びが私の心中に広がっています。

私達は愛へ帰る存在でした。愛が私達。私達の中に愛があつた。このことを、ただただひたすらに、伝え続けてくれた母の意識、田池留吉、アルバートの意識にありがとうの思いだけを伝えます。

アルバート、私達は次元を超えてまいります。アルバート、ありがとうございます。アルバート、あなたと出会えてよかつた。あなたの意識の世界と出会えてよかつた。

アルバートを呼んできた私達宇宙の思いとともに、私は今、あなたの中へ
帰つていくことを確認しています。

時を経て、今、私達は一つの世界を心に広げ感じています。嬉しいです。
嬉しいです。日本の国は、今はもうないけれど、日本の国で、田池留吉とど
もに学び、私達は一つの世界を知りました。

苦しかつた転生てんしやうを、すべてその一つの愛の中に包み入れ、私達はともに、
ともに真実の道を着実に一步、歩めることができるんです。

私達の意識、私達の存在は永遠です。

IV

正しい瞑想が鍵である

ここまで記してきましたように、私達人間には、自分達の本質、自分達のふるさと、愛に目覚めていくために、これまでの転生がありましたし、これからの一^{てんしょう}時間（タイムリミット三〇〇年）と空間が、それぞれに用意されています。

みんな愛から出て、愛に帰る中にあり、その軌道修正を自らに求めてきたのです。その軌道修正は困難を極めますが、必ず、必ず、現実のものとしてまいりましようと固く、固く約束してきたことを、一人ひとりが、正しい瞑想を継続していくことで、自分の中に思い出してください。

真実は、たった一つです。愛の覚醒が待たれています。次元移行という意識の流れは、今、^{しゃくしゅく}蕭々として流れ、仕事を成しています。

どうぞ、一人でも多くの方が、そして一日でも早く、正しい瞑想をして、その意識の流れを自分の中に流してください。ともに帰れる喜びを自分の中で確認してください。

意識の転回、愛の覚醒という人生の唯一の目的を達成するためのキーワードは、「正しい瞑想」だということは、ご理解いただいていると思います。「正しい瞑想」を知らない人、できない人は、本当のことは何も分かりません。ということは、その意識の世界は闇黒あんこくだと申し上げてもいいでしょう。よって、是が非でも、「正しい瞑想」をしてください。

繰り返します。

「正しい瞑想」とは、田池留吉を思う瞑想です。田池留吉に自分の心の針を向けて合わせていく瞑想です。

田池留吉とは、自分の中の愛です。心のふるさと、愛です。

田池留吉という人名が付いていますが、お伝えしている通り、田池留吉氏ではありません。田池留吉とは、田池留吉の世界、意識の世界を言います。その意識の世界はあなたのふるさと、愛なんです。それが本当のあなた自身なんです。

だから、田池留吉を思うということは、愛を思うということ、本当の自分を思うということです。

正しい瞑想は、自分の中に喜びと温もりをしっかりと広げていけるたつた一つの方法です。

正しい瞑想をすることが、正しい瞑想ができることが、自分を救いゆくたつた一つの方法なんです。

このことは、正しい瞑想をしていけば、おの自ずと分かることです。これしかないことが分かります。

だから、さらに正しい瞑想ができるよう、自らをいざなつていきます。それは愛のエネルギーです。自分の中の愛のエネルギーが自分をいざなつていくんです。

その様を瞑想の中で感じていけば、どれほど今という時がありがたい時なのか、そして、どんなに自分は恵まれた存在であるのかが、心に響いてきて、

その思いは、さらに瞑想に拍車をかけていきます。いい方向に、いい方向に、自然に循環していくんです。

そうすれば、自分の外に何かを求めるることは、全く違っていた、間違っていたことなど、はつきりと分かつてきます。外に求めることがどんなに愚劣なものなのか、あなたの心ははつきりと伝えてくるのです。

いつも、いつも、田池留吉の世界に心を向けている自分であるかどうか

のかということです。田池留吉以外のものは、みんなブラックです。

そう言い切れるまであなたは、自分の心の中の田池留吉の世界を信じていますか。知っていますでしょうか。

本当の喜びと幸せが自分で広がっていけば、どこにいても何をしていても、思えば嬉しいのです。思うだけで嬉しいんです。

何が、何で、そんなことはどうだつていいんです。自分の中はみんな知つ

て いるんだから、それに出会つていけば、^{おの}白ずっと そ うなつて くるこ とが 実感 で きま す。もともと 幸せだつた 自分を 思い出し、復活させて い けば よかつた だけだつたこ とが、本 当に 心で 納得 で きま す。

そ うなつて く れば、あとは、日々、自 分の 日常 の 中で 無理を せ ず、自 分のペー
スで ゆつたり と 思いを 向け て いく 喜びが 待つて いるだけ です。

そ れに 沿つて 生活を して い けば、自 分を 自 分が さらに 喜びへ 幸せへ いざなつ
て いくん で す。

ああ、本 当に 幸せな 人生だつたと、心から、本 当に 心から 湧いて 出て くる
よ うな 時間を できる限り、たくさん、たくさん持つて い きま しょ う。

何も 難しいこ とは ありま せん で した。本 当に 幸せは、そこら辺に ゴロゴロ
と 転がつて い ました。幸せを 幸せだ と思え ない ように して きただけのこ とで
し た。

瞑想をしましよう。正しい瞑想をしましよう。

そして、幸せな自分、喜びの自分、これからのこと、色々、色々、心で感じ、心で味わってください。

正しい瞑想を継続、日常化して、本当の喜びと本当の幸せを味わっていきましょう。

正しい瞑想を通して、限りない温もり、限りない優しさ、限りない喜びの中で、こうして、今という時を迎えていることを、実感してください。

そして、間違い続けてきた自分の道を、自分の中の愛のエネルギー、パワーで、真っ直ぐに、ただひたすら真っ直ぐに、愛へ愛へと進めていきましょう。

さて、目に見えなくて、耳にも聞こえなくて、形も匂いも何もない世界に、たった一つある真実を知っていくために、「日々、正しい瞑想を」ということで、私自身も励行しています。

以下、日々の瞑想を通して、私の心に上がってきた思いを掲載させていた
だきました。



「自分の中にすべてがある。自分の中に温もり、優しさ、喜びがある。心を
自分の中に向けていけば、本当の自分が応えてくれる。」

これを自分の中に確信すればいいんです。いいえ、みんな確信できるよう
になっています。

だから、確信できれば、あとはどんどん自分の中に針を向けていけば、も
う自分達はどんなに幸せであるか、どなたの心にも響いてきます。素直に自
分の周りを感じてください。素直になつて、自分の心の声を聞いてください。
母の思いを感じてください。

何ということもなかつたんです。幸せな自分がそこにいるだけです。あり
がとうと言っている自分がそこにいます。私達は、その自分とともに存在し

ていくことを学んできたはずです。

だから、すごい学びなんです。学ばせていただいたこと、いただいていることに、感謝、感謝しかないでしょう。

嬉しいから瞑想をします。幸せだから瞑想をします。

思いを向けることが、本当の喜びであり、本当の優しさなんです。



私達は愛に帰る、本当の自分に帰る道筋にあります。

これは絶対の真実です。このことをあなたの心で知つてください、感じてくださいということなんです。本当に心で知つていけば、感じていけば、すべてが整つていたことはつぶさに感じられます。

そして、みんな愛の中についた、もともと幸せ、喜び、温もりのエネルギーとして存在していたことが自分の心で分かります。自分の心で分かるんです。自分の意識の世界でキャッチできるんです。それを実感してください。そう

すれば、人生、すべては喜びです。自分という存在は喜びだということが分かれます。

喜びの自分を苦しみの自分に変えていった愚かさ、無知を感じて、感じて、そして、そこから喜びの自分とともに存在していく道に、一分、一秒でも早く出会ってください。



「どのようにして生きていけばいいのか。何を求めて生きていけばいいのか。どうすれば心から幸せだと思えるのか。本当のことは確かににあるんだけれど、それはいつたいどこにあるのか。何が本当のことなのか。」

自分の中の疑問が氷解していく過程をこうして歩ませていただいていることが、私には本当に嬉しいこと、喜ばしいことです。

自分の外に探し求めてきたものはみんな、泡のように一瞬にして消え去つていった数知れない体験があるのに、それでも懲りずに自分の外に求めていつ

てしまう心癖を打破することは、確かに難しいことでした。しかし、不可能なことではなかった。針の向け先が間違っていることを伝えてもらつたから、それを素直に実践していけばいいだけのことでした。

「本当のことは自分の中にある。自分の中に本当の自分がいる。それが愛と呼んでいるものなんだ。自分は愛とともに、愛の中にあるんだ。」

心を中に向ける瞑想、内なる田池留吉、本当の自分に合わせていく瞑想の時間を重ねながら、長年の疑問に、こういう解答を引き出していった現実を前にして、益々瞑想に磨きがかかります。

プラス、プラスに転じていく瞑想の手応えを感じています。



私は神なりの下らないちっぽけな世界から、自分を一日も早く解き放してください。自分を自由にしてあげてください。

自分の中の苦しみ、哀しみ、閉塞感等々の暗くて重いエネルギーに愛、優

しい温もりをお伝えください。ともにあることをお伝えください。私達は愛だつたとお伝えください。お伝えできる喜びと幸せを、満喫してください。上からの目線では何も伝わりません。ともにあることを優しさと温もりの中で伝えているか、いつも絶えず自分の中の針の向け先を確認しながら、一步、一步、慎重に、しかし、しつかりと歩みを進めてください。



心を向けていけばいくほどに、ただただ嬉しい。思うだけで嬉しい。宇宙は待っているし、だから、宇宙に思いを向けると、どんどん応えてくれます。それが本当に何とも言えない喜びです。

真っ暗な中で彷徨さまよい続けてきた自分に、私は、今、こうして温もりと幸せ、そして愛へ帰る、本当の自分に帰る喜びだけを伝えることができるなんて、これこそ奇跡としか言いようがありません。そして安らぎを感じます。

肉という形を持つている私がここにあります。肉というものは、今世だけ

でも、習慣とか慣習とかといったものに自分をはめ込んできたんだから、肉の自分の思いはとても小さなものです。

しかし、私は全くそれとは違う自分を知っているし、感じています。だから、私はすうつとその自分の世界を心に広げていくことができます。

そうすると、本当に違うんです。自分の中に奇跡が起こったんです。その奇跡が喜びとなつて、温もりとなつて現実に、今、私の中に広がっていく体験を瞑想の中で重ねていくことができます。

だから、瞑想は喜び。瞑想だけが真実の世界を伝える術でした。^{すべ}

形も、色も、匂いも、言葉も何もない。ただ思いが広がっていく。その思いは優しさ、温もり、広がり、ともにある喜びの世界でした。



本当のことを知るために、本当のことを自分に伝えるために生まれてきたんだと、自分で本当に知つたとき、何もかもうまく仕組んできたと思わ

ざるを得ないです。

仕組む、それは自分の計画ですが、自分の中はみんな知っていた、知つてこうして肉を持ち、肉の環境を設定、整え、自分をいざなつてきたんだと実感です。

そのエネルギーはいつたい何だろうかと思うとき、ああ、本当の自分が自分をいざなつてきたんだと心で思えます。だから、瞑想は喜び。瞑想をすればただただ幸せと喜びを感じます。

どんなに苦しい中にあつたとしても、こうして自分に本当のことを探せることができる今がある、こんな時を迎える今が私には何ともありがたいです。

肉から見る世界、意識から見る世界、全く違っていた。本当にすごいとか言いようがありません。

そういうすごい心の体験を重ねられるということが、喜び、幸せです。

それは、目を閉じて、心を向け合わせていくしかないんです。肉を持たせてもらつたから、学ぶことができました。だから、ありがとうございます。



母の思いが伝わってきます。たくさんの母から思いが伝わってきます。
ありがとうございます。肉を持たせていただいてありがとうございます。
ありがとうございますと言えることが幸せです。

見ること、聞くこと等、五官によつて入つてくるものに、心が動かないはずはありません。しかし、心の針を向けて思うことを学んできたんだから、その振幅は驚くほどに小さくなつてゐるはずです。

いつも、そして、ふつと自分の中に戻る大きさを学び、会得し、自分の中に戻れる幸せと喜びを広げていける、こんな人生ほど幸せな人生はないと思つています。



「喜んで、喜んで、ただ喜んでいい。」

気に食わない人、氣乗りのしないこと、氣に染まないこと、氣をもむこと、その他、自分を汚してきた諸々を山のように積み重ねてきた数知れない転生。もうもう てんじょうどんなにしても幸せが分からなかつた。どんなにしても喜びはすぐに苦しみへ変わつていつた。けれど、なぜなのか分からなかつた。

そして、今世生まれてきました。そして、学びに繋つながりました。そして、基盤を変えることが、そのなぜの疑問に答えることであることを学びました。一生懸命に学びました。学ばせていただける環境を喜びました。みんな自分で計画してきたことだけれど、私は自分の人生に、今世、初めて満足しました。今は、宇宙を思うことを励行しています。宇宙を思うということは、愛を思い、田池留吉を思い、アルバートを思い、母を思い、ふるさとを思うこと。「思うことがすべてで、思えることがすべてで、そして、喜んで、喜んで、ただ喜んでいけばいい。」

このことは、正しい瞑想を継続、日常化していかないと自分的心で分かりません。だけど、正しい瞑想を励行していけば、いとも簡単に誰にでも分かることでした。

そして、それからが本当の学びでした。肉もない、名前もない自分の仲間達に呼び掛け、ともに存在している喜びと幸せを、温もりの中で伝えていきましょう。



私は、死後の自分を感じ、死んだらどうなるのか、今、はつきりと自分の心で感じていくことが大切だと思っています。

それが一番、これから自分にとつて、大きな意味を成していくと思います。それを心で感じ、心に広げ、そのことをじんじんじんじん、そうだ、そうだと心で感じていくことが、自分にとつて一番大事なことだと思うんです。

自分の死後は、今、現実的なものです。死んで自分はどうなるのか。

心中で感じ、それが現実のものとして今、心で感じられること、その感じたものをしっかりと受け止めて、それを、自分の学びのポイントとしていく、自分の歩みを進めていく、その思いはとても大切だと思うんです。

だから、私は、自分の死後を呼ぶ瞑想、自分の死後を感じる瞑想、自分の死後と語る瞑想、そういう方向に心を向けて、その時間をたくさん持ちたいと思います。



最初から幸せだったと心で感じている今でしようか。瞑想は喜びとなつていますか。心を向ければ、ありがとうございます。嬉しい、幸せとなつていますか。宇宙に心を向けていますか。宇宙を呼んでいますか。宇宙の波動を心で受けていますか。宇宙と対話していますか。心の底から突き上がつてくる体験はどうでしょうか。

異語を発していますか。どうぞ、宇宙と思い、愛と思い、異語で語ること

をやつてみてください。異語は波動です。異語は宇宙のリズムです。

異語を発して、自分の中の宇宙が反応していくことを実感してください。宇宙は生きています。あなたの内で、あなたとともに生きています。そういうことをどんどん感じられる瞑想の時間を持つていきましょう。

瞑想は楽しいです。瞑想は嬉しいです。ともにある喜びが感じられます。そんな瞑想の時間を重ねていけば、自分とは何だろうか、自分の周りの人達や出来事とは何、生きているとはどういうことだろうか、死ぬとはどういうことか等々の問いかけを、自分の中でしっかりと検証しながら、着実に歩める喜びを実感できると思います。



自分の身近な人で、学びに触れた人で、もうすでに死んでしまった人がいる人は、その人達に意識を向けて現状把握していくことをやつてみられたらどうでしょうか。

同時に自分の死後、死後の自分を語ることをしていけば、よりいつそう今、肉を持っている今が、大切だと実感できるのではないでしようか。

私は、そういうことを活用しながら私の勉強を進めています。

私の場合、愛犬の死も体験していますので、もちろん、そちらのほうにも意識を向けています。

結果は言うまでもありません。分かり切つていることを実際にやつてみるのも勉強です。その違いは歴然としますが、そういうことも自分の勉強の一つに加えることによって、生きているということ、死んでいるということ、その境目はなく、みんな意識であるということが鮮明に心に響いてきます。

色々と自分で工夫して、瞑想を楽しんでいきましょう。自分を救うために生まれてきたんです。自分に本当のことを伝えるために生まれてきたんです。そのところ、一日も早くスイッチを切り替えて、瞑想ができる生活環境を整え、喜んで今、学んでいきましょう。



正しい瞑想をするには、やはり母の温もりです。温もりの中にどんどん自分をいざなっていく優しさ、パワーがあると、確認、確信する体験を重ねていくことです。そうしていくと、段々喜びと温もりが大きくなつて、さらに自分を受け入れていく喜びを感じます。喜びと温もりの層が厚くなつて、さらに心の針が合つてくるということ、つまり、正しい瞑想ができるくるということでしょう。それはまさに相乗効果です。



何をするために生まれてきたのか。何かをしなければならなかつたんです。その何かが全部、全く全部違つていました。そもそも、生まれてきて死んでもいくまでが人生だとしてきたことが間違いでした。

何かをしなければならなかつた。その何かを知りたくて、だけど結局分からず、世の中という流れに流れ、染まり、小さな幸せと喜びに満足せざ

るを得ない、あるいは失意のうちに幕を閉じていくか、そんなことばかりを繰り返してきたよう思います。

神とか仏とか宇宙のパワーとか、そんなもので幸せと喜びを手中に収めることができると信じてきた己の愚かさに、ようやく今世の肉を通して出会え、自分を知らずにきた愚かさに懺悔ざんげしかありませんでした。

だから、「あなたは愛です」というメッセージほどすごいものはないです。そのメッセージを心で受け、波動を感じ、波動で応えていく瞑想の時間を持つ、持てるほどすごいものはないです。

死ぬまで元気で瞑想めいそう三昧。何かをしなければならなかつた。その何かを心で知つて、豊かな、本当に心からありがとうと思える時間を、自分の中に広げていきませんか。田池留吉の意識が三次元にやつてきたから、それが可能となりました。私はそれを心で知り得ました。だから道は真っ直ぐです。



「すべては真実の自分に目覚めるために。愛である自分に目覚めるために。」

今この肉体を持って、学びに触れ、学びを進めてきた時間を朝の半身浴でふと思いました。

前記のメッセージのシナリオを自分に用意してきた現実を思い起こし、形として現れ、それを促し、また形は消えていき、その中でそのメッセージは忠実に遂行されてきたんだと感じられます。

日々瞑想を重ねていけば、本当に意識の流れは何の狂いもなく流れしていく、その中にあつたことに気付いていくようになつていることを感じます。

すごいと思いました。どんなに間違続けていても、どんなに苦しみ続けてきても、待ち続けて信じ続けている自分の存在に気付くように、気付くよう自らを促している、そんなことが実感として心に響いてきます。

心の針を向けて合わせていく瞑想をしていればそれでいい。それだけ。私は本当にそう思います。愛、宇宙、田池留吉、アルバート、お母さん、それ

が私のふるさとでした。私のふるさとを思い、瞑想をするだけです。



幸せと喜び、温もりは自分の中にはあった。それは本当だつたんです。だから、心を向ければよかつただけでした。いつでも、どこでも、どんな時も、自分はその中にあつたんだということでした。

こんな単純なことが、こんな簡単なことが、なぜ、長い、長い間、分からなかつたのか。本当にそう思います。そして、分からなかつたから、苦しい転生を繰り返してきたことも領うなずけます。

嘘うそみたいだけれど、本當です。心の向け先ひとつでした。ただそれだけでした。温もりと喜びの中で広がっていきます。



日々、生活のリズムが一定していて、そして、ありがとうの思いが自然に出てくる生活。そんな時間が過ぎ去っていく中で、ただ思うは意識の流れ。宇

宙とともににある今を、喜んで、喜んで、ただひたすらに瞑想をします。

肉を本物として存在してきた転生の結果、ようやく宇宙という自分のふるさと、帰るべきふるさとを、心に広げていける転生に出会いました。

宇宙を思うとき、私は本当に嬉しいです。異語で語り合える時間がたまらなく嬉しい。肉という形を纏^{まと}った私の中で、宇宙達の喜びがつぶさに感じられます。私達は、温もりと喜びが湧いて出てくる世界にあつたことを、確認しています。だから、瞑想は喜びだけです。

心を向けることが、どんなに素晴らしいことなのか、どんなにすごいことなのか。私の中の田池留吉、アルバートの意識とともに、この道を、ただひたすら真っ直ぐに前進あるのみです。

それが私の切望してきたこと。そして、意識の流れの計画。愚かな肉を携え、ようやく自分の計画を知っていく時間となりました。ありがとう。



思いの世界に生きている、思いの世界にある私とともに生きていると、認識しているから、私は瞑想をしたくなるんです。

心を向ければ、必ず響いてくる世界があります。私は、その世界を大切に育んでいます。^{はぐく}それは唯一信じられる世界です。その波動を感じ、広げ、さらに心を向けていくこと、それだけが喜び、幸せ、温もりと出会っていく方法なんだと思っています。

なぜ生まれてきたのかとか、人生の目的は本当に何だろうかとか、そして死を、誰しもが本当に真剣に考え思わなければならない時が、必ずやつてきます。意識の流れの中にされることを心で感じていきましょう。愛に目覚めよという意識の流れは自分の心中にあります。



私は、凄まじいエネルギーであるとか、狂いに狂ったエネルギーであるとか、いわゆるブラックを称賛するつもりはないけれど、エネルギーの大きさに着

目します。

すなわち、ブラックは自分の本質に目覚めない限り、ブラックのままだけれど、ひとたび愛に目覚めて、エネルギーの質を変換していけば、それは言うまでもなく、大きなパワーを発揮します。

昔、昔、宇宙に心を向ければ、我的宇宙と出てきたし、宇宙を支配するとか、闘いの宇宙とかを好み、そういうエネルギーを自分の栄養分にして、さらに大きな宇宙を示していこうとしてきた過去を感じてきました。

だから、そこには絶えず闘いのエネルギーが流れていました。闘いのエネルギーの強弱、大小で、すべてを決めてきました。温もりにパワーがあるなんて思いもしなかつたことでした。

学びの時は流れました。瞑想を重ね、エネルギーの変換の体験を重ねてきました。私の中で宇宙は変わりました。

次元移行には大きなエネルギーを必要とします。大きなパワーが働いてい

きます。狂いに狂ってきたエネルギー、凄まじいエネルギーだからこそ、それを反転して、どんどん喜びに変換していけば、それはすごいんです。

自分に目覚め、次元移行という意識の流れを実感できる方向に、一步進めしてください。本来の愛のエネルギー、愛のパワーで、次元移行をしつかりと呼び掛け遂行していく喜びを、堪能してまいりましょう。



目を閉じて、五官を閉じて、ただ田池留吉を思う、アルバートを思う、愛、宇宙を思い、母を思い、重ねてきた転生^{てんじょう}を思い、これからも永遠に続いていく時を思う。

こうして一つの肉を用意して、その作業ができる今を喜んで、ただひたすらに思いを向けていける喜びの輪が広がつていけばと思います。

宇宙は待っているんです。本当に心から宇宙とともに存在している喜びを、その肉を通して感じ、共鳴し合える仲間とともに、瞑想をする時間と空間を

持てたら、こんなに幸せなことはありません。

小さな人の集まりから、さらにその喜びの輪を広げていければいいなあと
思っています。



私のふるさとは宇宙です。母なる宇宙です。私は、ともに超えていこうと、
宇宙に彷徨う意識達に呼び掛けていける喜びを感じています。

一つの肉体を持ち、今、こうして心を向けられる喜びがあります。思える
喜びがあります。

学びを知つて、異語が出てきて、異語でふるさとのメロディーを一人口づ
さむ喜びを知りました。セミナー会場でみんないつしょにふるさとを歌う場
面でも、異語でふるさとを歌つていたことがよくありました。

日常では、犬と散歩しながら、犬を抱きながら、異語でふるさとを口づさ
んで、幸せな時を過ごしました。

私のふるさと、宇宙。宇宙を思うとき、宇宙を呼ぶとき、たまらなく嬉しい。どんなに、どんなにこの時を待っていたか。やつと、やつと、約束を果たす方向に、自分の舵かじを取つていける、そんな喜びとありがとうが心に込み上がります。



自分がこれまで生きてきた今世の肉の時間を思つてみましょう。

父として、母として、一社会人、一家庭人として、たくさんの方エネルギーを放出してきました。形の世界しか知らなかつた、信じられなかつた残骸がたくさんあると思います。築いてきたもの、守るべきもの、失いたくないものの、それぞれにあると思います。

しかし、学びと出会い、学び始めました。学び続けています。

今、肉として生きてきた、費やしてきたエネルギーを、本当にプラスとして受け取っていますか。それとも、まだブラック、マイナスのままでしようか。

生まれてきた意味、人生の目的、正しく教えていただきました。自分の肉とともに、正しく学び、喜んで人生を全うしていきましょう。



愛を捨て去った間違いの転生^{てんしゅう}を経てきました。本当にやつと、やつとなんです。どうぞ、自分の中のその思いに触れてみてください。どんなに狂い続けても、苦しみ続けても、それがやつと、愛だった、みんな、みんな愛だつたんだ、と心でしっかりと感じてみてください。心で受けてみてください。本当に嬉しいですよ。

波動、真実の波動の世界を感じてまいりましょう。感じていける、実感できるよう、自分の歩みを一步前へ進めてください。

私達はエネルギー。愛の中に一つのエネルギーでした。



心に響き、伝わってくる波動の世界を、肉を通して真っ直ぐに伝えなさい。

思うことがすべて。思えば通じることを、波動で伝えていくのです。波動はエネルギー。エネルギーは仕事をします。淡淡と、そして肅々として、ただただ思うことをやつてください。私はあなた、あなたは私。私達は一つ。波動で伝えていきます。一つの中にある喜びと幸せを伝えていきます。



私達は愛です。私はいつもそのメッセージを波動として、あなたのなかから流しています。すべては愛の存在なんです。愛でないものなんてありません。ただ、肉、形を本物としていては、この波動の世界が分からぬんです。それほど私達の心は闇と化してしまった、そう言つても決して過言ではあります。せん。

このことをいつ信じていけるか、これから様々な現象を通して、皆さんの方にしつかりと提示していきます。
愛でないものは一切ありません。どんなに形が崩れ去つても、そこでどん

なに人々の心が泣き叫んだ状態であつても、すべては愛。愛しか存在しないことを今一度、お伝えします。

いいえ、何度も伝えていきます。愛しか存在しないんです。



あなたの心の中にある優しさ、喜び、温もりをどんどん、どんどん広げていきましょう。

ただただ田池留吉を思う喜び、愛を思う喜び、宇宙を思う喜びを心に感じ広げていくだけです。

もちろん、その喜びが大きくなればなるほどに、凄まじいエネルギーが心に伝わってくるでしょう。闇黒あんこくの中に沈み、まだこの喜びのエネルギーが届いていない宇宙達もたくさん、たくさんあります。

しかし、恐れることは要りません。それらをすっぽりと包み込む愛のエネルギーに満ち溢あふれていることを、あなたの意識の世界は知っているからです。

田池留吉、アルバート、お母さんと心で呼べば、その愛のエネルギーは、たちまちのうちに、それらの闇黒あんこくの宇宙達に伝わり、その波動、エネルギーを感じていくんです。

もう、その時期に差し掛かっています。今、宇宙はどんどん目覚めています。肉を持たない分、その目覚めるスピードは速いのです。

どうぞ、心の針をしつかりと向けて合わせて、その喜びの世界を、さらに、さらに、広げていってください。

宇宙は無限大です。あなたは無限大です。田池留吉、アルバートの波動の世界、エネルギーはあまねく宇宙に注ぎ込まれています。

私はいつも、いつも、どんな時もあなたの心の中で伝えていました。肉ができることは、私のほうに、心の針を向けることです。

どうぞ、心で感じ広げている波動の世界を、どんどん、どんどん広げていきましょう。まだまだ、いいえ、限りなく広がっていく喜び、温もり、愛の

世界を、私達は、ただただお伝えできることが喜びです。

出会いをありがとうございます。本当にありがとうございます。

肉も大切にしてください。たくさんの宇宙達のエネルギーを受け止めていけることを喜んでいってください。

喜びだけです。こうして出会わせていただきて、本当に嬉しいです。



宇宙に思いを向ける喜びと幸せ、どうぞ、瞑想の中で存分に味わっていきましょう。

私達のふるさと、愛、母なる宇宙は、ずっと、ずっと、待ち続けてくれていました。その思いに応えるべく肉を持ち、田池留吉のもとで学びを進めてきました。どうぞ、このチャンス、千載一遇のチャンスを自ら逸することなく、自分に真摯^{しんし}に真向かいになつて、すべて喜びで受け入れてまいりましょう。

今、あなたが、どんなに苦しくても、辛くても^{つら}、悲しくても、恐怖、不安

の思いが突き上げてきても、それはあなたが作ってきたものに過ぎないんです。真つ暗闇をいつまでも握りしめていないで、どうぞ、ご自分の心を、もつと開けた優しい温もりの中へ解き放していきましょう。そして、今世、こうして、そこに存在していることが喜びなんだと信じられるあなたに蘇よみがえつてください。

田池留吉、アルバートのメッセージはすべての意識達、肉を持つもの、持たないものの、すべての意識達、全宇宙に向けて発信されています。

波動です。愛のエネルギーです。どうぞ、しっかりとそれぞれの心で受け取ってください。受け取り、その波動の世界に一つに溶け込んでいきましょう。喜びだけです。温もりの世界、ありがとうの世界、それがあなたの世界です。



心をしつかりと田池留吉に向いていきましょう。

気付き、促しの現象がそれぞれに起こってきます。みんな、みんな真実に

目覚めていくためのものです。

肉、形を本物としてきた心に、強い、強い衝撃を起こさざるを得ないところまで来て います。

日々、本当に心から真剣に田池留吉、自分の中の愛を感じてまいりましょう。今の肉を持つて、しんし 真摯に素直に喜んで、自分を見つめていくことを約束してきました。そして、本当の幸せ、本当の喜び、本当の温もりを心に復活させること、自分の中のたくさんの自分に伝えていくこと、どうぞ、自分に自分が誓ってきた思いを感じてください。

私、田池留吉は、あなたの心の中でいつも、いつも伝えて います。

喜び、温もり、幸せ、あなたの心から尽きることなく湧いて きます。それがあなただから。その本当のあなたに出会っていきましょうと、私は、一つの肉を持ってきました。

本当は、私は生まれる必要などなかつたんです。しかし、私はこうして肉

を持つっています。これは意識の流れが厳然としてある証です。

田池留吉に心を向けること、心の針を限りなく合わせていくことを、私は伝えさせていただきました。

心を一つにして、ともに歩める喜びを伝えています。波動で受けてください。



自分が死んだあの時間を思つてください。死ねば、ひとりです。今、肉を持つてゐるから、なかなか実感が湧いてこないかもしだせが、間違いなく死ねば、自分の世界がそこにあるだけです。

そんな中で、自分はいつたい、どのように存在しているのでしょうか。

本当にお母さんを思い、田池留吉を思い、呼べるのでしょうか。

そして、その手前の死ぬ瞬間はどうでしょうか。どんな思いが心から出てくるのでしょうか。

病氣等で、死ぬまで時間の猶予がある場合もあります。あるいは、一瞬の

うちに命を落とす場合もあります。

色々なケースがありますが、生まれてきたんですから、必ず死んでいきます。肉体を持ちながら死を学ぶ今があります。この今という時、やはり愛以外にないでしよう。

今世、可能な限り学んでまいりましょう。



たくさんの宇宙達が待っています。あなたの心の中にまだまだ数知れない意識達が待っています。優しい思いを向けてください。ただただ母の温もりの中にあつたこと、私達は愛だったと、ともに、ともに帰っていこう、そう伝えてください。

田池留吉に心を向けることを、その肉を持つて学んでまいりました。

私達は愛の中になります。温もりの中になります。だから、どんなに厳しくて、暗くて、凄まじいエネルギーであつても、いいえ、凄まじければ凄ま

じいほどに、それを反転していけば、どんなに大きな喜び、温もりが心に広がっていくか。それが思いを向けていくく
醒醐味だいごみです。

ブラックを膨らますだけ膨らませ、垂れ流してきたけれど、それを優しく温かく包み込んでいけるパワーが自分の中にあつたことを、私達は今世初めで学ばせていただきました。

宇宙は待っています。優しい思いで、ただただ迎えてください。

日々の瞑想を重ね、その信を深く、強くしていくことに専念してまいりましょう。



宇宙を思つて瞑想をしていきましょう。どんどん瞑想をしていきましょう。宇宙は私達の帰るただ一つのふるさとです。

もう形の世界は程々でいいではないですか。いざれその形は全く崩れていのですから。

私達には形がありません。宇宙に彷徨さまよつている意識達の思いを、どうぞ、どうぞ、心で受け止め、そしてしつかりと伝えてください。いつまでも、田池留吉を欲で思い、欲で呼ぶのではなく、ただただ喜びで思い、喜びで呼んでください。

思うだけで嬉しい、思えば喜びとなっていますか。

田池留吉は宇宙、私達のふるさと、母の温もり、愛。すべてが一つです。意識の転回なくして真実の世界を解き明かすことはできないことを、先人達の現状からその通りだと心で納得することが先決です。

自分を変えていくとは、中の意識を転回していくことを言います。そのための数知れない転生てんしょうだつたし、これから三〇〇年です。

準備万端整えて、からの転生てんしょう、現象を迎えていきましょう。ともに歩みを進めていきませんか。



「喜びで、喜びでともに喜びのこの道を進んでいきましょう。」

人類の歴史の中で、初めて、本当に初めて、たつた一つの真実の道が指し示されました。

私達の本当に進むべき道、そこには愛しかなかつた。そこには喜びと温もりしかなかつた。母の意識の中で、私達は何度も、何度もその波動を伝えていただいていたのに、それを自分の中に伝えることができませんでした。瞑想の中で、その愚かさがひしひしと伝わつてくるけれど、それもみんな喜びでした。こうして待つてくれていた優しさと温もり、本当の自分の思いに触れていけば、みんな喜びでした。もう絶対に道を間違えずに、ただひたすら自分の前に広がつている道を進んでいくだけですと伝わってきます。

思いを向けることが喜びです。田池留吉と呼べることが喜びです。呼べば応えてくれます。ともにありますと。心を向けていればいいんですけど。

あなたは、今世の出会いを本当に喜んでいますか。千載一遇の出会いだと

心から思っていますか。

私の中にはその思いが響き伝わってくるんです。だから、どんなに肉が愚かであっても、下らない肉の思いに自分を見失うことはありません。



心を向ける喜びを感じていますか。思う喜びはどうでしょうか。瞑想をする時間をしっかりと確保していきましょう。

あなたの心の中に温もりと喜び、幸せが広がっている今でしょか。肉をくれた喜びが心に湧いていますか。今ある喜び、今肉があつて、思える喜び、これを本当に心で感じてくれば、この学びに繋がり^{つな}ござり学ばせていただいていること、それがどんなに幸せなことなのか、どんどん心に伝わり響いてくるでしょう。

心が呼んでいるんです。心から呼んでいるんです。呼べる今が幸せだとしみじみ感じていくでしょう。

心を向ける喜び、思う喜び、思える喜びです。正しい瞑想なくして、何も

分かりません。田池留吉を思うということはすごいことです。すごいといふことはどういうことなのか、どんなにすごいのか、もちろん説明はできません。あなたの心で感じて知つていく以外にないんです。だから、正しい瞑想を心掛けて感じて知つていってください。それが人生なんです。



心を、ただただ田池留吉のほうに向けて、そして喜び、ありがとうの時間を重ねていってください。重ねていけるように学びを進めてください。いつまでも、ちっぽけなことにとらわれずに、もつと自分を大切にしていきましょう。本当にるべきこと、本当に自分が望んできたことは何だったのでしょうか。するべきこと、望んできたことが分からずじまい、人生を閉じていく人が殆どです。

何もない、ただ思いの世界に存在している自分と、真剣に向かい合つて、自分の心の声をひたすら拾つていきましょう。

人間の心は、形の世界の産物では到底癒されません。根本的な解決にはなりません。自分の中の愛に目覚めていく、自分が愛だつたと目覚めていく以外に何もありません。

いつ、どんなタイミングでそうなっていくのか、あるいはそくならないのか、それはみんなそれぞれの問題です。

ただし、そういうことは関係なく、意識の流れの計画は肅々として遂行されています。



宇宙に思いを向けて瞑想。愛を思つて瞑想。

すべてが喜び。温もりと喜びの中で、たくさんの宇宙達の目覚めがあり、そして、たくさんの宇宙達とともに次元を超えていく喜び、愛へ帰る道が心の中に広がっていきます。

待つて、待つて、待ち望んできた波動の世界を心で感じている今世の時間。

宇宙を心から呼べる、心から思える幸せを、淡々と重ねていけばいい。心の中から、そのように伝わってきます。

宇宙に思いを向けて瞑想。愛を思つて瞑想。そうすることができる今が幸せ。だから私は瞑想をします。瞑想、思いを向けていくことが愛なんだ、そう思つています。

「次元移行という意識の流れを、しつかりと心で確信してください。そして、次の転生に必ず繋いでください。」

どなたの心にも、このメッセージが伝わっています。どうぞ、素直に、真摯に、そして喜びで、受け止めてください。今世の時間を大切にしていきましょう。



愛へ帰る道を、一步、一步、着実に歩んでいますか。それとも、いまだに他力の神々に、自分を売り渡しているのでしょうか。

母に今のその肉体をいただいてきたのです。その重み、喜びを心から味わつ

ていますか。

今そこにあることが喜び、本当にこのことを心から感じてください。感じ
てくれば、必ず変わります。意識の世界に変革が起こってきます。喜びはパワー
です。温もりはパワーです。

愛を捨て去った意識の世界には、その思いは全く届きませんでした。パワー
をくれ、パワーが欲しいとしてきた自分の間違いに気付くことから始めなけ
ればなりません。

生まれてきた意味、生きる目的、心から、心から知つてください。



揺るぎない信のもとに、一步、一步あなたの道を着実に進めていくこと、
それを私はあなたに伝えました。温もり、喜びの世界をあなたの中にどんどん
広げていくこと、そのことだけがあなたのするべきことです。

田池留吉に心の針を向け合わせ、そして、どんどん宇宙と交信していきな

さい。

宇宙は待つていると、あなたを通して伝えさせていただいています。宇宙、たくさんの意識達。心の中の母を捨て、愛を捨て、暗闇の奥底に沈んでしまった宇宙達。その宇宙達もともに帰れることを、喜んで、喜んでいきましょう。

私達は愛へ帰ります。そのようにあなたのなかから伝えていきます。優しい温もり、力強いエネルギー、それが愛のエネルギー。愛へ帰る喜び、ただただそれがあるだけです。

私達の本質、愛へ向かうエネルギーはすごい勢いで、これから地球全土を包んでまいります。

すべては意識。すべてはエネルギー。愛へ帰るように動いてまいります。

宇宙達に心を向けたとき、あなたの心の中に、何が響いてきますか。優しさ、温もりの中へ帰りましょう。優しいメッセージ、力強いメッセージの中にななたが伝えることは、この喜びと温もり、温かさ、広がり、どこまでも限り

なく広がっていく意識の世界に存在している私達だったと、メッセージとしてお伝えください。

そのメッセージは届いてまいります。宇宙達の目覚めを引き起こしてまいります。心中から、どんどん、どんどん、湧き上がってくる喜び、温もり。愛に帰ろう。喜びに帰ろう。ふるさと、私達のふるさとを思い出そう。そのような思いを、どんどん、どんどん引き起こしていく、それが愛のエネルギー。愛の中に私達は存在しています。

V おわりに

生活水準もバラバラで、価値基準も色々とあって、人生に対する満足度もかなりの開きがあるのが、形の世界のお話です。形の世界には、公平、平等など決して存在しません。その中でみんなが一様に、幸せと喜びの人生を享受できるなんていうことはあり得ないことです。光が当たれば影ができます。当然です。恨み節を喰^{うな}つても、どうなるものでもないんです。

だからというわけではありませんが、そういうところでうろうろしないで、そういうところは程々に流して、もっと自分発見にエネルギーを注いでいきましょう。それに残された人生の時間の中で、本当の幸せと喜びの時間を満喫していきましょう。

自分発見です。心の針を自分の中に向けて、自分の中の思いをどんどん掘り起こし、自分をどんどん発見し、同時に自分の中から突き上がつてくる喜びと幸せ、温もりに満たされていきましょう。

みんなが一様に、幸せと喜びの人生を享受できるのは、これしかありません。あなたも、そういう過程を経て、私達は愛の中に一つだったと思える喜びを堪能していきませんか。喜びの輪に入つてきました。

「愛へ帰る、本当の自分に帰る」、それしかないんです。それだけをするために、私達は何度も生まれ変わつてきました。

今こそ目的達成へ総力を上げて取り組んでください。過去の人生の焼き直しではなく、目的意識をしつかりと持つて、自分の今と向き合つていきましょう。

「誰のために生きるのでもなし。自分のために生きなさい」、心からそう伝えてくれる己の思いに従つて、これからも眞実の世界を学んでまいりましょう。

最後になりましたが、あなたの中に、今一度、次のことを尋ねてみてください。

「自分がするべきことは何なのか。本當にするべきことは何なのか。そして、自分が本当にしたかったことはいつたい何なのか。」

学びに出会い、少なくとも正しい瞑想を継続してきた方達は、すでに自分の心の中でその答えと出会っているはずです。

あとは、その答えを素直に受け、それに沿つて淡々と存在していけばいいだけです。もちろん、どの程度受けて、どの程度沿っていくのかは、正しい瞑想をして自分の心に響いてくる度合いによって違ってきます。

一方、今現在、学びに触れていない方達も、その答えはもちろん、自分の中にあるけれども、それには出会っていないだけです。出会っていないという意味では、不幸せな人生です。

しかし、今はそれでも、ある時期がくれば、そして条件が整つてくれれば、

意識の流れに乗っていきます。それがこれから一五〇年、三〇〇年に至る時間の出来事です。それは激動の時間、激震の時間と言えるでしょう。

その時間を経て、一二五〇年後に結集してくる意識達があります。

一二五〇年後。私は、本当にアルバートの中で、アルバートの波動を喜び、愛だった私達のふるさとへ一步、一步着実に歩みを進めていく仲間達と、心を通じ合わせていきたい、いこう、いくんだという思いが強いです。

肉を持ち、こうしてともに学ぶ機会をいただいている友もそうです。そして、もちろん肉を持たないたくさんの仲間達もそうです。

異語と異語で通じ合い、分かり合い、ともに行きましょうと喜び合える時間、空間を共有しながら、さらに真実の波動の世界を感じていくことは最高の幸せだと私は思っています。

出会いを待っています。心の底から歓喜の渦が湧き起こつてくる体験を共有可能ある、そんな瞬間を待っています。

そして、意識はともに次元を超えていきます。これが壮大な意識の流れの計画です。

その壮大な意識の流れの計画に乗って、みんな、みんな、心のふるさと、愛へ帰る道に出会つてまいりましょう。

私達は愛の中に存在しています。愛へ帰る道がそこにあるだけです。その道をしつかりと自分の中に確立していけるように、ただただ喜んで、これから存在してください。

喜びです。人生は喜びです。ただただ喜び。愛の中にあつたことを心から、心から知つてまいりましょう。

厳然と、そして、肅々と流れる意識の流れをしつかりと心で感じながら、ともに、ともにあることを喜び、そして、愛に目覚めてください。

「愛、心のふるさとは、すべての意識が帰るたつた一つのふるさとです。」

板倉直子（大阪府）	(山陰・山陽)	甲斐厚子（宮崎県）
浜部英美子（大阪府）	田中博子（島根県）	小林和代（宮崎県）
福井英治（大阪府）	東 巖（鳥取県）	石川泰子（宮崎県）
福井真由子（大阪府）	紀村尚子（岡山県）	下境田良子（鹿児島県）
福地千恵（大阪府）	上原有美（岡山県）	吉鶴みち子（鹿児島県）
別所貴司子（大阪府）	森本素子（広島県）	原頭智子（鹿児島県）
別所恭子（大阪府）	道原双葉（広島県）	小城由美子（鹿児島県）
北山祐子（大阪府）	吉本咲子（山口県）	増森トミ工（鹿児島県）
北川美智子（大阪府）	山本ちひろ（山口県）	池田登志子（鹿児島県）
北風蓉子（大阪府）	神田通子（山口県）	池田敏明（鹿児島県）
牧 華江（大阪府）	木本早江（山口県）	築地由美（鹿児島県）
牧村市太郎（大阪府）		藤山一郎（鹿児島県）
牧村清子（大阪府）		藤山靖子（鹿児島県）
牧村鈴子（大阪府）	(四 国)	南川千恵子（鹿児島県）
牧 峰史（大阪府）	砂川夕力工（香川県）	安里昌春（沖縄県）
堀之内れい子（大阪府）	金枠かおり（愛媛県）	山城一美（沖縄県）
麻野泰子（大阪府）	山本由美子（愛媛県）	小渡純子（沖縄県）
俣野美津保（大阪府）	須田紘一（愛媛県）	上地孝枝（沖縄県）
野崎浩司（大阪府）	元吉朝海（高知県）	西銘啓子（沖縄県）
野崎貞子（大阪府）		前田絹代（沖縄県）
野崎和佳子（大阪府）		前田 操（沖縄県）
野川京子（大阪府）		名嘉ゆう子（沖縄県）
野川紘一（大阪府）	(九 州)	
柳生三千子（大阪府）	井元絹子（福岡県）	
林 朋子（大阪府）	煙草晴美（福岡県）	
鈴木健治（大阪府）	橋爪あき子（福岡県）	
鈴木雄治（大阪府）	江良勤子（福岡県）	
鈴木和子（大阪府）	佐藤喬一（福岡県）	
蓮沼邦子（大阪府）	佐藤賢一（福岡県）	
脇本佳子（大阪府）	佐藤敏子（福岡県）	
籾内至子（大阪府）	薬師寺博之（福岡県）	
桐生敏明（大阪府）	和田福枝（福岡県）	
桐生由美子（大阪府）	楠本光代（長崎県）	
桐生紘次（大阪府）	楠本八朗（長崎県）	
桐生愛夏（大阪府）	矢口美香（熊本県）	
UTAブック（大阪府）	永松公代（大分県）	
	佐藤泰司（大分県）	
	糸永由香里（大分県）	
	新庄美紀（大分県）	
		(海 外)
		Kaori Zemrak (アメリカ)
		Yozo Otsuki (オーストラリア)

岡田 忠（大阪府）	山本道子（大阪府）	前田恵美子（大阪府）
岡野満明（大阪府）	山路加奈（大阪府）	増田光生（大阪府）
岡野榮子（大阪府）	山路昇子（大阪府）	増田美耶子（大阪府）
岡林ふさ子（大阪府）	軸丸郭子（大阪府）	村岡節子（大阪府）
下前恵子（大阪府）	緒方和子（大阪府）	村山健治（大阪府）
河副弥栄子（大阪府）	小栗 猛（大阪府）	村山和恵（大阪府）
梶谷麻里（大阪府）	小原和歌子（大阪府）	村上千榮子（大阪府）
岸本逸子（大阪府）	小吹順子（大阪府）	村田恭子（大阪府）
吉田佳世（大阪府）	小路いづみ（大阪府）	大久保瑞枝（大阪府）
吉田吉田初子（大阪府）	小濱章夫（大阪府）	大城道代（大阪府）
吉田睦子（大阪府）	小濱千晶（大阪府）	大北知衣子（大阪府）
久米ノア（大阪府）	植野雅子（大阪府）	大北敏治（大阪府）
久米真路（大阪府）	植野保市（大阪府）	谷 裕子（大阪府）
久米美晴（大阪府）	植野隆子（大阪府）	中村亜紀子（大阪府）
久保和恵（大阪府）	新田妙子（大阪府）	中島一二（大阪府）
金銅修一（大阪府）	森川三良（大阪府）	朝日めぐみ（大阪府）
金銅優子（大阪府）	森布美子（大阪府）	長原美代子（大阪府）
駒井徳三郎（大阪府）	森 保之（大阪府）	津野真弓（大阪府）
駒井美智子（大阪府）	水本裕子（大阪府）	津野 博（大阪府）
栗原有実子（大阪府）	杉村和子（大阪府）	津野裕子（大阪府）
栗生英司（大阪府）	清水寛子（大阪府）	辻田 裕（大阪府）
古川シズカ（大阪府）	清水康雄（大阪府）	田中喜代子（大阪府）
荒木紘美（大阪府）	清水貞博（大阪府）	田中幸子（大阪府）
香西京子（大阪府）	西浦久仁子（大阪府）	田中美穂（大阪府）
高岡滋子（大阪府）	西浦啓之（大阪府）	高橋謙一郎（大阪府）
高橋敬子（大阪府）	西山貞子（大阪府）	渡海恵子（大阪府）
今村美保（大阪府）	西川喜代子（大阪府）	渡辺ちづる（大阪府）
佐藤延生（大阪府）	西川光江（大阪府）	東野さくら（大阪府）
皿谷紀美子（大阪府）	西川和二（大阪府）	東野 治（大阪府）
三室周子（大阪府）	西前忠久（大阪府）	東野洋子（大阪府）
三室勝文（大阪府）	斎田和広（大阪府）	藤田厚子（大阪府）
山口晶子（大阪府）	石橋弘子（大阪府）	藤田泰代（大阪府）
山之口全（大阪府）	石橋晋吉（大阪府）	藤本敏枝（大阪府）
山之口鈴子（大阪府）	川勝高子（大阪府）	白川イツ子（大阪府）
山本綾子（大阪府）	川本栄子（大阪府）	畠中悦子（大阪府）
山本嘉奈子（大阪府）	浅尾宣子（大阪府）	板倉充宏（大阪府）

松澤和美（石川県）	中務敬子（滋賀県）	岡本扶巳江（奈良県）	
仲亜友子（石川県）	梅本清子（滋賀県）	吉川三恵子（奈良県）	
檜田喜久子（石川県）	木村恒子（滋賀県）	櫛山三郎（奈良県）	
斎藤 緑（福井県）	脇川照代（滋賀県）	櫛山聰子（奈良県）	
	糠山文子（京都府）	櫛山哲子（奈良県）	
(中部・東海)			
奥田めぐみ（岐阜県）	上野淑子（京都府）	山根令子（奈良県）	
横谷泰子（岐阜県）	大槻千鶴（京都府）	寺西喜美子（奈良県）	
山本健次（岐阜県）	大槻文英（京都府）	辰巳 進（奈良県）	
水野建雄（岐阜県）	大槻友里（京都府）	谷村佳孝（奈良県）	
辻 早穂（岐阜県）	大槻玲子（京都府）	谷村美智子（奈良県）	
辻 保佳（岐阜県）	長尾俊子（京都府）	長浜溶子（奈良県）	
平岡耕一（岐阜県）	長尾淳代（京都府）	藤田くみ子（奈良県）	
平田 肇（岐阜県）	土川多美子（京都府）	平松直美（奈良県）	
柚原博次（岐阜県）	藤岡佳代（京都府）	堀崎順子（奈良県）	
和多野準（岐阜県）	藤岡雅人（京都府）	本田せつ子（奈良県）	
和多野純子（岐阜県）	藤岡知子（京都府）	檜木須美子（奈良県）	
太田弘子（静岡県）	藤田清美（京都府）	檜木奈美（奈良県）	
河合千枝子（愛知県）	藤田早恵子（京都府）	檜木夕美子（奈良県）	
後藤糸恵（愛知県）	柳田弘一（京都府）	山内啓子（和歌山県）	
小鳩邦子（愛知県）	岸本留美子（兵庫県）	大前渥子（和歌山県）	
望月きさ江（愛知県）	金澤知子（兵庫県）	竹中左千子（和歌山県）	
望月富士雄（愛知県）	松村謙三（兵庫県）	林真由美（和歌山県）	
小林英子（三重県）	松村順子（兵庫県）		
東 省吾（三重県）	松尾由美（兵庫県）		
	神原正和（兵庫県）	(大 阪)	
(近 畿)			
一井秋雄（滋賀県）	西田テル子（兵庫県）	久保明子（大阪府）	
宇野敏一（滋賀県）	浅野昭子（兵庫県）	久保徹夫（大阪府）	
宇野誉郎（滋賀県）	村上京子（兵庫県）	中田和子（大阪府）	
宇野直子（滋賀県）	村上由幸（兵庫県）	ホーヴ養子（大阪府）	
金子 恵（滋賀県）	中原百合子（兵庫県）	阿部一憲（大阪府）	
金子育子（滋賀県）	渡邊新（兵庫県）	安江満久（大阪府）	
今井敬子（滋賀県）	渡邊浩美（兵庫県）	安達イサ（大阪府）	
佐藤光浩（滋賀県）	矢持和美（兵庫県）	伊丹裕子（大阪府）	
中村美由紀（滋賀県）	澤田美智子（兵庫県）	伊藤努（大阪府）	
	澤田洋一（兵庫県）	園部恵（大阪府）	
	逢坂裕子（兵庫県）	奥出康子（大阪府）	
		岡田宮子（大阪府）	

「愛、心のふるさと」図書館への寄贈者一覧(383名/3634冊)

(北海道・東北)

井上てる子(北海道)
岩本祥子(北海道)
高橋紀子(青森県)
宇田美津子(岩手県)
小笠原康浩(岩手県)
小笠原超(岩手県)
大原のり子(岩手県)
長澤優子(岩手県)
平賀シキ(岩手県)
佐々木信賢(宮城県)
山崎美由紀(宮城県)
菅原智子(宮城県)
渡部ハツ(山形県)
伊藤美恵子(福島県)
橋本愛子(福島県)
古川路子(福島県)
浅野トクヱ(福島県)

(関 東)

加納江美(茨城県)
加納治子(茨城県)
吉田紀子(茨城県)
向原みさ子(茨城県)
吉田みどり(栃木県)
金子のり子(栃木県)
西村修一(栃木県)
井野たか子(群馬県)
酒井愛子(群馬県)
浜名千栄子(群馬県)
関谷敬子(埼玉県)
関谷千尋(埼玉県)
大河内径子(埼玉県)

柳澤清香(埼玉県)

小林栄子(千葉県)

海老名典子(千葉県)

吉田アツ子(千葉県)

高橋ミヨ子(千葉県)

高野篤(千葉県)

小牟田裕子(千葉県)

小林力弥(千葉県)

上野佐織(千葉県)

赤間桂子(千葉県)

大竹裕人(千葉県)

藤井岳人(千葉県)

政所澄子(神奈川県)

安西志保美(神奈川県)

安藤すみ(神奈川県)

丸田薰(神奈川県)

丸田宗司(神奈川県)

菊池典子(神奈川県)

金海瑞恵(神奈川県)

金親由見子(神奈川県)

原田美恵子(神奈川県)

黒田ミチル(神奈川県)

佐保千鶴(神奈川県)

四方田 健(神奈川県)

四方田奈加子(神奈川県)

宗 節子(神奈川県)

小泉淑子(神奈川県)

森岡茂子(神奈川県)

政所竹治(神奈川県)

石橋ため子(神奈川県)

草薙富美子(神奈川県)

丹下恵美子(神奈川県)

長山 誠(神奈川県)

藤野典子(神奈川県)

平 里恵(神奈川県)

片岡幸子(神奈川県)

茂木秋枝(神奈川県)

矢吹靖子(神奈川県)

雀岡政子(神奈川県)

深澤孝枝(山梨県)

(東 京)

市川明子(東京都)

長島摩里子(東京都)

安本 宏(東京都)

梶谷佳秀(東京都)

吉岡峰子(東京都)

笹野和子(東京都)

市川和雄(東京都)

石橋俊子(東京都)

石川路子(東京都)

蔵元惠美子(東京都)

蔵元美智子(東京都)

長島一機(東京都)

塚越広子(東京都)

定免裕子(東京都)

能登谷洋子(東京都)

片山由紀子(東京都)

糸木京子(東京都)

(北 陸)

佐藤正巳(新潟県)

大塚和子(富山県)

大塚健一郎(富山県)

橋本直美(石川県)

柴田節子(石川県)

塩川香世（しおかわかよ）

1959年3月大阪市に生まれる。

1991年3月税理士登録。

税務関係業務に従事、現在に至る。

著書／「ありがとう」意識の流れ姉妹編（2006.8）

「母なる宇宙とともに」I、II（2007.3）（2007.4）

「意識の転回」ver1.0（2007.8）

「愛と死の真実」（2008.4）

「あなた、このまま死んでしまっていいのでしょうか」（2009.5）

「第二の人生」—ラストチャンスです—（2009.10）

「意識の流れ」—増補・改訂版—（2010.5）

「その人、田池留吉」—田池留吉の世界—（2010.10）

「続 意識の流れ」—改訂版—（2010.12）

「宇宙の風」—私達人間は、死んで終わりでしょうか—（2011.5）

「意識の転回」ver2.0（2011.8）

「その人、田池留吉Ⅱ」—田池留吉の世界 自然治癒力—（2011.11）

「磁場と反転」—その人、田池留吉 III—（2012.11）

「母なる宇宙とともに」改訂版（2013.4）

「愛 あなたは愛です」（2013.12）

愛、心のふるさと

初版発行 2014年12月20日

著 者 塩川香世

発 行 者 桐生敏明

装 丁 金子瓦

本文組版 中村康一

電子図書製作 編集工房 D E P

発 行 U T A ブック

大阪府南河内郡河南町大宝 3-8-11

印刷・製本 モリモト印刷株式会社